9256
13

八13
2756
3870

世にこゝろ[illegible]へ侍るうちに三年ばかりの[illegible]
[illegible]百日とれば[illegible]ことの葉を書あつめて
男女子のをしへ[illegible]ふと[illegible]氏の女[illegible]
[illegible]海こゝろ[illegible]百人[illegible]

万治四年辛丑初春日

中務氏

2756

うれ和尊ゝ志てるひろよそまりゝ人まろを
うろろひゝるゝゝくゝぐゝねめゝりゝる女ハあゝさゝり山
乃ゆゝさゝりゝ無心をゆゝうゝゝゝゝをゝりびめハゆゝゝゝよ
のゝとゝゝぐゝき世ゝりゝこゝとゝをゝはゝゝくゝゝゝゝまゝゝく
ひゝとゝゝゝゝ

よしのきハうゑきりぬおとこをんなゐみ中をやゐぐ
うゑかゑくをあゑくぬぬゑくゑくみひとうゑゐ
こゑろをあびゐーぬおとこ山乃もーまあび行るんゐよ
をんあみゐうゑどもをあつめ行れど名ばゐゑくをゑる
乗ーの物ゐゐりとゐぬぐくをゐる事みも行れ
やぬゐけあきをんふゐるゐふをあみくゐゐみも
やとぬゐうゑき事みをゐをひををづゐあぬぬかき
あはめ行りぬんをやくゑぬぬおおゐうんぬゐ
あんすゐあゐゐはるゐ

をゝこゝ
神代より きこえてるびめと申ハ ちかあるもち
のゝみ法むとを ゆのめ月ろひこみつまふあんちう
ますをいまは の宮ひゝ あるとのゝこゝろひめこゝろやゝ
ちろといたひ伝ひ。清せゝこゝとゝみゝをあぢすきこゝろ
ひこねのゝこゝとゝトくるゝ。ちをるつゝこゝうるゝをゝく
て。ゝこゝの乃思ゝこゝの乃谷のあつゝまてゝりゝやけ
あゝすをゝこゝてゝるひめみゝよゝこゝのゝこゝうゝる
あをゝあゝゝやゝ。をゝとゝふゝゝだゝゝみゝうふゝゝぜゝる
ゝゝみゝゝこゝゝゝゝる。みゝ。あふゝゝまゝをゝやゝ。ゝふ

ゝゝこゝゝゝす。あぢすきゝこゝろひこね
これいゝゝまの乃ゝずをけゝぢゝゝゝ。をゝびゝをゝこゝとゝふ稲
あゝを。あをゝあゝやゝと。天ゝゝあゝをゝこゝつゝゝゝゝ。をゝをゝゝゝゝゝゝで
ゝゝゝあゝぢゝゝゝゝゝゝ

ぐわつぐれる玉のこゝろとつてとゝろあれとゝ
乃茅ゝゝゝ出中乃玉ゝ衣ばゝうしまひつゝいゝ
びめとすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やゝをゝゝいゝびをやつゝぐゝゝはまゝごゝゝ
やつゝぐゝゝはゝゝゝみやつゝぐゝゝを

とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

地神(ぢしん)四代彦火火出見尊(ひこほほでみのみこと)乃(の)ときまひめ名
ごゝをおぐしあるゝよゝませるなるゝ
沖津多(おきつたど)かを津(つ)くゝたまゝゝわがいねゝ
いをハ月ゝ(つきゝ)ゝよみことくゝ
ゝよゝまひゝ乃なゝ
あゝゝ面乃ひゝいゝゝと人ハ山と
きゝゝぶゝよゝゝしゝゝふゝくゝゝゝゝ
いゝゝ世乃中ハあゝ為おゝひゝ神代のゝゝもおゝぐゝ引ゝ
ゝきゝゝひゝゝくゝゝゝゝでゝみゝゝくゝ
ゝすゝ地神(ちしん)三代(さだい)天津彦火瓊々杵(あまつひこのゝにぎ)乃ゝゝみ為

子洛母ゝ(ぢらぼゝ)みゝゝゝゝ

ここをもてめるようをとりてるぞこうでひとを
みくぐくもてこーやいてるをおやーこおがめく
をーこと人のるまをやはりんとうぐふ法々きあ
アこれぶ巧くやひめぞるをぐちぢうーこまひてや
ぐくうりむろをくぐ出ぎくくあきいくをはくりて。
こをもちりひきこをりつちひをくやりやりぐ
をーめるところぞーことくみるちぐぶるのずさ
いをいあるぐぞこれまをとにこをみ法るあぐぶつが
あく生めくとりひくぐするちりのうりむろよ火
をつひくくやきーのぶこをりのをのうちちうれ

のるるるぞちぐあくこをーこ出ればきちうみれ法きちうまれ
出ることを火雨降のこをくいうつぎまりをちり
をちりぐひく生出ることをひこりでこみこと
やトせりとくや。月幸紀りちるーばりあくて
法母こみをる巧くやひめぞほみうこあひをくぐり
くれぶこをくのるまやーぶこをちぐめりちぶまこと
乃法るある幸ハりくちりのはれどもをーせ
の人乃幸にくくひとものりぐるをこをこぐぶうぐふ
をものやあるちんぞきにうあ神変を現ぜめて
をあやーこをちうれるせんとの幸りしとのく

まハせーとくや。神ーぞよく世ハ繁いとひさぐ世て
にさぐらき世ハくとしくぷ多をくとりふくとちち
ばめ伯ーよりりきわざりこと
うとをりびめ独ひくぷ帝を造くよとまるる
わぐせとぐくぐきよひりけぐよ
くとのみるまひくとくとと
山姫し稚淳二流皇子もとも無坂大中姫のいとと
せぷーけのかるるの川ひめと允恭天皇よ后みとくおい
すーぬぷよいとくとぎ新形すぐれるひて繁色衣
をとをりとくてりくやくるゆくりとく

時の人。衣通姫とぞ名はげまつりしき。怨恭天皇山
うをきこしめしてつかはしたまひしに。使ひ
こびうちたまひてやきられどせこびきぐうげ
ひきのそず。ひとくりあぬきさきみわぎあを
はこうろもちをつまくさぐりまるにぐう
ぜちやみくにあをうてろあさうずのまひわ
こせのうくれぐせんくさちくちとりぬ
まつりをりくりぐてうど藤原みうやい
ふあをうやばくりくごてうちとりひうを
をときまつりせつぐみとりろぐみうやよ

り幸しつつ法らんじくるまぐうみゆぐうとりう
ひめぐくり幸あしぞしやうをえとりあうぐあの
さうずひくあひそまつりつぐうるを
ひとりごちぬつりとうやぐうといちとこ
とつくり蜘蛛さぐりくよろこびあうとふやを
ようこまつるうぐみこ兵。ぐうどぐうをきこ
やうくぐいとぐおりれよあぐめりくるとうんぐで
うとをりびあのつやうぐいまみきいのこうや
こ。やりとがあねぎこうりつぐやりこみゆく
りぐうどをうくこまつりこせるつりとうんつこ

きくりこと つりみくいとこうくそくれねが
ちくふきこぐこうあくうをそうれくをくを居わ
ゆんくしや奏しのくりれぶこうとをむぐうり
乃りせおりかりくぶこの内ゆ茅渟とろ所ろ
てしことるうやばくりくすせまくさせあ
又とうん月幸紀くりくをせりぶうとを
利ひめをきくきくをそれくをくびの勅命と
うけきこぐあくうをそうれくをくぬんなど
ののくりくる女ハクくこうのくまりきよ當時
乃人なくふいくりいちちやくく勅よをこぐひゆくん

みけくやひめをこくこのかわせをわくこにうけ
ひくぐくくを父くりくひまくとのくるとぶうとをくり
姫乃心ぐくなぐ世よ心わくん女などぶくめをと
どえんくくえくひゆくぐきくのくぶまきみふの
和幸みくうくをゆ明神とくくあとれる
まくるふこみくとをくりひめくくゆくるくぐすくこ
乃くるくみやくるゆ幸れぶ勅りかりとふぬゆ
つくまるぶくるおなぐくくくりあんありくる
かぐくきみれりきこを勅使あくくぶちみくまぐぐう
くるは國司乃をもぐいとをろうふりとくあり

きくもちゆるうり。こちいりるくきさまで
にあつれて。國司は孤をゝ女一事をもあつく元
あひのそれぶいと長うくわいるきわつ。家女として
いと風流りやさきき女ありくるぶ内くぶきをおか
きうり内ぶ伯くよくくゝ伯くう
あさう山りげきくゝある山の井乃
ゆきさうろハわがおもうくに
とあん。國司をろうのにおもひまつくする事ハあ
ねどいうよ内機嫌うりあびひ伯くんといるを
やうれぶおわきくゝ乃くきやつくぎく。酒宴し

うゝくゝとうやゝ。百薬集ありくゝ伯ゝとと
に悪神を感ぜしめ人傷をわもるやゝとゝのを
なれぶれをよくゝまうぶつきはぎあるくしぶみわさ
くやまのうぶ新法あるゆくうりぶみ王仁ゝ仁法
ち窟をうくそゝまうく
あみをげうり内くやゝ山花々ごとり
つゝくをくゝとくゝやゝみを那
とよめるゝうゝとをぶうゝみちゝゝゝくゝじゝ
そゝあるゝ人乃をゝうゝも志伯ゝとゝん
内ぶみうゝのゝさ内きぶ美賀ゝとゝ伯くハ機のきよ

とも公乃法むとめうりしぞうきさきのうえ
をうこうのやまみあるうえうこうを
こうこうこうゆうゆうのうりうりうり
ゆうとうのるを惠萼といふ禪師。大唐よりうこ。
齊安國師りうこうしくぶ国師きうひうこ。これ月
ゆうのうりうこうけうれうるうなしぞうことに婦人みうこ
大丈夫なるうものこしとかめうりうとうんぞうこ
しみ才ゑ義京というをあんこのうみうようびうこか
めやまのみうとこ。檀林寺といふこうこをこうて
み義京をすへをきうひうよりうこ法をとひきこ

うるゆうこうよぐうん皇后とうこ。法りうか
めうちいとうまめきうこうしにうせうこうと
する時きさきうのせうこうやうれうせうぶうのず
こうまかさむる幸ようれうで野ぐうよすてをきね。
世よいうこみむなぐ心こうこうんうものわぐあうこみう
こうこうこうなきうこうをうこうぶきうう心をあ
らうむうやうこうやあうこうとのうひうれぶうこうをゆい
ごんうまうこ法うこうを捨をきなーぐうあうといま法
嗔うおうこうう。こぐうこうやうこうこ法りうぶ檀林
こいまみて移うこうあうりうこうる。女人法うこぐぶ

ろくまのまつひろく寵ものとり侍るまに侍乃
けるうりきたるをもさやうるかりひと
つまくに人をもすくひやうんれ侍ぬとおろれまやこぶ
くはりや

新古今集より　不邪婦戒乃こころを

けらぬぎるまなかうへ乃さまごろも
わがはまあらわぬつまかくれ我
なとこみくくるるくるるふこみよのちの世と
をりいとつくなりきわざあるまをく女のを
きくえやうんの佛をとくこころひ神をとくこころて

ものいふ〜ぐるゆくりふぐきくるきわざあるもずぐて
女乃こちハわがはまあるくさわる幸ハさく
をきくに貞女二夫をくとおもと史記といふをり
はりむうをろうこり姚玉章といひ女十六さい
みくなとこうせまくれハちくあるれくく又
こきなとこまあハせんといひれどハくく貞女の行
をうこうんとくおやのことをみるもこがぐて
ひとりはりまうくるくまとしろきくれな
るはハぐくみひとつひありくるぐおるうせて
やどりくぐひとりとおどりもつぐぐどびあり

きさらぎやうぎうくはけいそうかるいふやうるん
ちを心あるべからずとなげりにうことあれどうづく
食をくひくるべうとおうぐやまくあれくと
ひとつめつ。糸をもちくもちあにつみうぶ
あくとちくぬんごろあひうしくりぐて
ち秋はばくめくえのとみちること
なうるもはがつずくひとりやうぎうくけいぐもと
よきうくればいとくぐあうれとおしひくく。嫦玉京詩
はうくいくく
昔時無偶去　今年還独歸

古人恩既重　不忍更雙飛

うのくくぐあうくちくきうこんねんくひとうひ
くとばこぐ乃秋はばひうくちくいまるはむめ
乃ごくをひくうくうきうあるとくてうやう。
こむんねんすぐるおをくばうくちくひまくる高
びくとばうれまうくうるかくこうねんあくれ
くればのくくあうくことくはれあるくいと
くぐくやくいの心をばまこれはむやるうぐくて。
あくびくぶいちのびくとくいくう。おくくる貞女の
こうろざふそはむやも國ぐ侍きばうく人ある

ちりうせぬんの事久舎せる中納言俊忠

ひとこれをおもひのうみにうせる

あこれとるこゑいとまもなくれと

とりひやとをるあしに　廿一官紀伊

をとるきくうれをあのあぐ波ハ

けしや神乃ぬれをうすれ

芳うちよ四ぎ行くく人ハ親ぎ元するのて・海

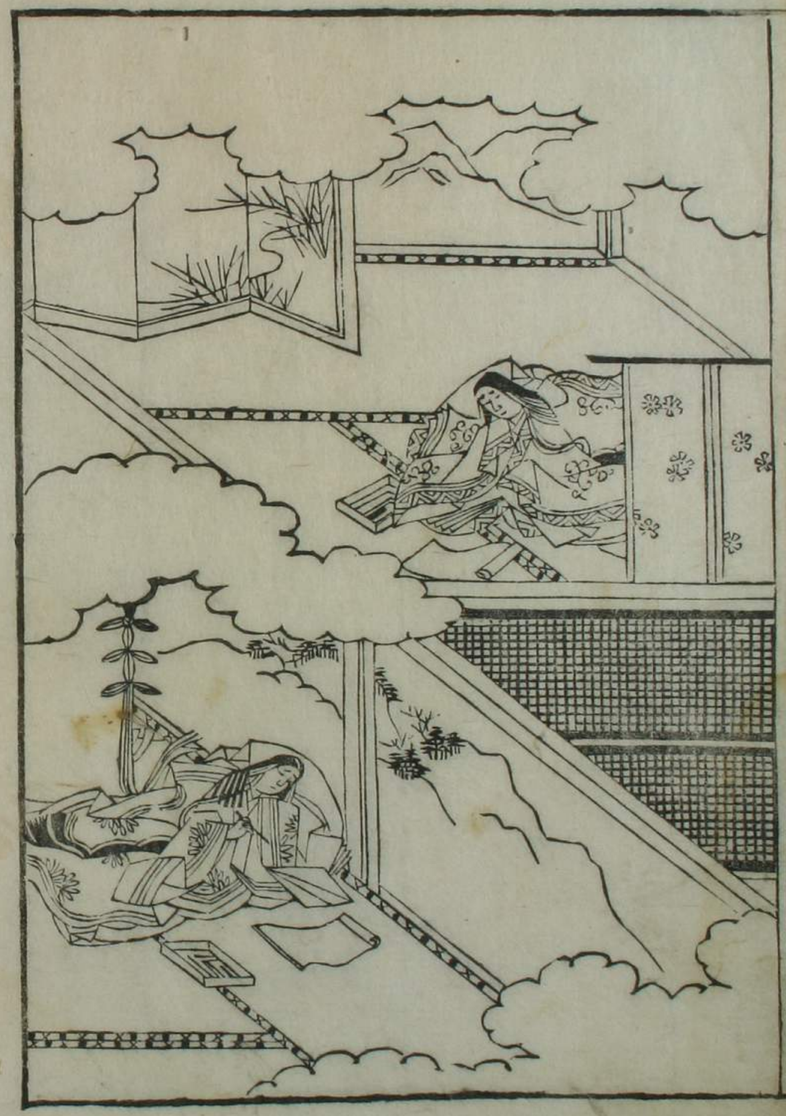
ほろ代しぶとるくまはぐくあひうひ伯るんぐ

おやをもく衣代ちくハられるさ

人ゝひよる事あるとんるぐちハ

かるくさくちびきぬるまきぬぎまつ
彩雲藻 とりと女まつり・三のびるかとたう
り出ちくもどひ作りくれど
さるかぬこうちいでんこうるやるもろ夢
あさこうりまるうしろくきさ 彩雲藻
とよくくゆり・又さとはけとりす女まよある
なとくはちとりくれこどおやし発くるりて
かのかとこうるとりさるまうちぬやまうち
とけぬうとひさづりくれば
けくぐまつうるまみを

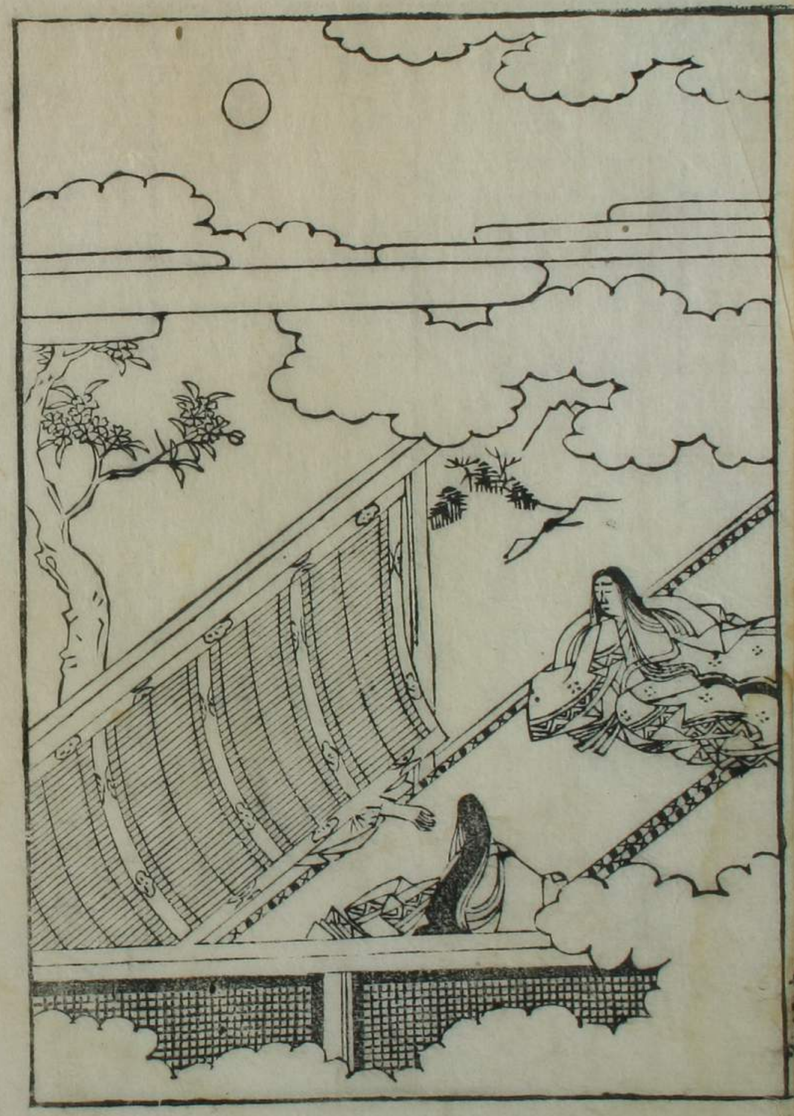
こうりとけあで名こ我こあうれり 下野
かくよくくはゆりあうそぎとふん高時のちん
ふちくびさるかとこうちいでくあびきやちく・名
をちぐすをもくうこうず・いうまみこうりをやくうち
とけ・ふりうるびぐどりやうりどびうと作る
へきうり・ちうりのちんまみこうろぐ・やさ
ちうこう作れをんとあいかく身をうりぐさう
こうゆ



関白の御使にてうりのんみてくだるみ者ども
をぐるーとちのひやうをきて大納言ぶ
ゝこれをまつもくうひなをこすの美ゝよ
是ちいれくはるれば・すゝのまいし
ゝゝゝよみゆめぶりもゝゝゝゝゝ
ひるゝゝん名をもりくれ
とよりくれゝゝゝゝゝ

大ぶこんゝゝゝ

ちぎりちゝゝゝゝゝ



もしうちとけてあうてさうもんしてをうと
をとうとゝゆうてうりはりがくうとべうりはゆうる
やつてうちあるものうとをうとはうとをとをとを
かろくをきさうしきを名を切うち作る下ちとうり
やさうくなりまわりきわざりうこう當時乃人
あうこはうこをばよりをいうりうりうひうひまま
くうもうをれうくをきていうりうりうはんさ
やうりをうるきうきをうのよりをちぎりをうろふ
ぎさうとうはきをのひうれば孫よ保悔乃うさ
れをいうりうはうりうこう

わかき女房・親うちのもとに
はゐのぼすなど物ぐるほしく人をよく見えてとくさぐ
かうしもいぎき事なりおやなどあれば
乃そうしひそかにいふ
をおさめ侍るべきをひとりたのもしくよさま
よ女房たちはべきを男のさぐるもとに作り
ぎられれ人ゝあるべしじ又よいなどたくの
づゝえんをもとうゝ生ねうそろるきう
きあるべいひそくまくい根をそしるうき
ものよやにとうそうを分をそでうしきわざ成

ろう源氏物語ろうぬのもとめ
ひとりうばきはるとくわがいきくあんれど
ゝ乃みふぐるのもとめ
ゝやうあるさいをひきぬく父乃大臣
あるもむろひをるてさずくむるく
りつひあきぬうり作ちくんどせばわらあんのち
ゝ分をうばそくをうせ作りれとつのよむとそう
いさめをきはるりぬくひる源氏よりひ
しそまろくはうゝ丸中宮をうゝまつるいて
ぎきさいをひきいで作るをぬ作きき
ぶれうきとうゝきこるぬ世乃人のさづひ乃い

おもひとそこくるみや。平中興乃むとをいとつて
うばきて帝にそまつんなどせひそるをなやみて
うりくのちとくおちつれて人乃子てくるな
きあつりすくるをあつれがらく平義成

おちこち乃人めまれる山ちとり
いくねせんとハおのひきやきとたて
やアとよくるとあつをとあつれつるを。山をんか
心をだしつばくるへ人みるく浄義大とくせと名代さ
ちくる事をどあつりくく新ぜそとよつ必
事どもあつくれぶれらやづく乃かいをもとけ

ずはをとぶ山をんあつりくぎくす。法師とつくろを
よせくぶあぐき世みそだをうけてる人くたちぶいとあ
ちきくぶこれよのちの世おろうくぐきわぐつり
これし伝れ。よ載集つりいくく。山ちつりこをつくく
給くるとき。心ある文を。女のちぐくはつり伝れい
よくくる　　文人法師

おろうやきそみけちのまるきだ
みくるるしびくしおちぶぐき　郭
かやくりそだくるきくく人くをいひさハれ。末
乃世みるくき伝くられん事ロおりきわぐろくろ

されば浮世の心ざしをぶかき女ぞうなどは法師
おちづきはてぬきぐしてなれとるべくもどころ
かくのかぜ將乃心をとゞめ右近あるかとゝみまとれどと
よろづ乃ことをうけくちひとれどまとれまとる
のちうしひやまをくるる

まとゝまゝ身をハなるとずちひて
人乃いのちよりおもくをなるくる

世乃おとこよりまとゝまゝハいてくるゝ事みて
はるべきをうれをバうゝずくゝおとこひとゝ令
をかゝむことをあうれ上きゝ心せるとゞ又ある

いかりやなりひあづくをいまはくる
うづまくをくれハまゝん
これあづまるおとこちどゝみくをゝ女とはと
くりまてをやゝ世をおいるのくちる女など
乃心おくよりるゝどゝ女ハくゝやりくるみくりゝど
おとこくりすはくれどもるゞくきを世をうう
とゝくるいみゝくをはゝぢめひはゝくをきね
ぢけ世るゞとくゝ出くゝはくれゝとゝはゝん
かくりくくうきみ乃ねるゞゝくくるゝ

乃事憶無量仏のゑ戒十
戒とときまのひとくぞろ〳〵のつをうるつまよ
ひとゝまゝで無ずといふものひとりをもゝ志ゞ
ゝ度乃うちる無厚ちゝゝありらごゝそるちゃハ
無厚半一といつりぞろうみ人を百無ゑ歳とふこ
とゆつり作るも人をゝ無ずゝ無むゝ蜂ゆゑ
ちつさゝゑあしのくぜハさむくれど
ゆゝゝちゝねバ日びつゝうゆる
れを憶無ゑ心ゝりゝゝゝるゝぐ信き事ゑて
無ずゝちゝゝる作じ漢の朱賢居ハ文学を居く

ちゝるといゝども家ゝゝゝゝゝあさまゝゝゝ者りゝと
ごゝ乃つゝますゝゝゝびゝゝゝゝをゝゝりゝまひと
とせゝてといひゝれどもゝずゝゝくわれゝり
ありゝみつぎゝとゝゝゝゝゝ

法師原乃加刀杖 凡石合掌を故意とゝ心を
ゆき荒乃まどうりあるとせねに
うき世をのきの乃ちのごうりうり
うもく人間乃八蓋乃ちんぞくゝ名と
そるハ拾ゝうゝめきこゝとゝ宝大阪をこれ
ををゝれゝまゝるすいちんやゝみをはゝうゝか
ゆゝくをゆ。ちゝれハゝとの〳〵ゆゝうゝゝゝかゝゝ世の
あゝひゝとおゝひゝうゝゝあゝふゝゝとをゝゝゝゝゝゝ
うゝゝうゝむゝゝきゝゝ車ゝうゝゝ。ゝゝとゝれゝ
わゝゝゝゝとおゝうゝんゝとゝゝゝゝ お義ゝうゝゝひゝゝと

をゝうゝゝんゝゝゝゝゝゝ

なんぞこれをきゝて月をもうらやむねゝとも
なりもうひ侍るとなんぞすぐゝ雪月をもて所
よむ人乃心をもしぞさはやかゝるけ乃ゆきけ
を侍りけれをうあるかりけ乃ゆきけ
をうあるべき物なれば月をもてにゝるをも
とめざるん人ハなんるなりとうゝずむげよりあさ
すき事なりけれどうゝむ人ハまさらう
う月ハ人まさるべきもの。まつ月をうゝるをの
をづつひゝくをゝうゝをゝゆる事。よつてのの
ひとゝうハ物ゝうれるゝきみゝうゝきゝ

ゆるあり又月乃あて平くる義。小武下内侍

くるまずこんとひてこぎかくれも

小夫

おをさりうくぶのめせぐあるれも

まりうくるまずいづる月くる

あり

小武下内侍

しのめずハまもそでぬる袖ぐるまねも

たれゆへくるあるいなけの月

おくこんくく月をこゑ無こゑいくくう

てゆくうくゆれくゑゑをんる袖むう

めぐくいづるあるくよるいげうり袖をつけくこうく

きのくずこ月ぐちあをゆきくゆるそゆすぎる

やくうをあくずやきくゆまりくく

ゆるなくこんくうるうくまでこゑ袖く

のちをきくるえいづくをとるなをみうう

くれぐくきはくくはくうくくる

ゆくるあるあ

のきぐうゆまぐこうくあるくこんえいぐくる

をきゆをくくでくくしくくるくる

世乃男あくくこんゆうちをたうくくうくをまむ

三郎やけ〳〵はれ、わがゆゑ乃わざとぞ
はるまつぶやき仁法天皇乃法中まで、こ
くりたるをもくわちくるゝ人、こちくとやと
れ女ゝうくしひつきくゝ、せぐれとなひちり
つけくかつんと世時、なのゝ世ゝとれ乃われ
がくくくく秘術をこちくにつくのく
くるこれをんくくくうをんをみ雪ひうをくゝ
はるわざうくれぐこみさくゝぬれわまゝ乃ゝ
乃くちをこゝろはくゝよくはるをくくちゝみや
越ぐくゝ武士乃つまとるくぎく人ゝ弓てる拙ぐく

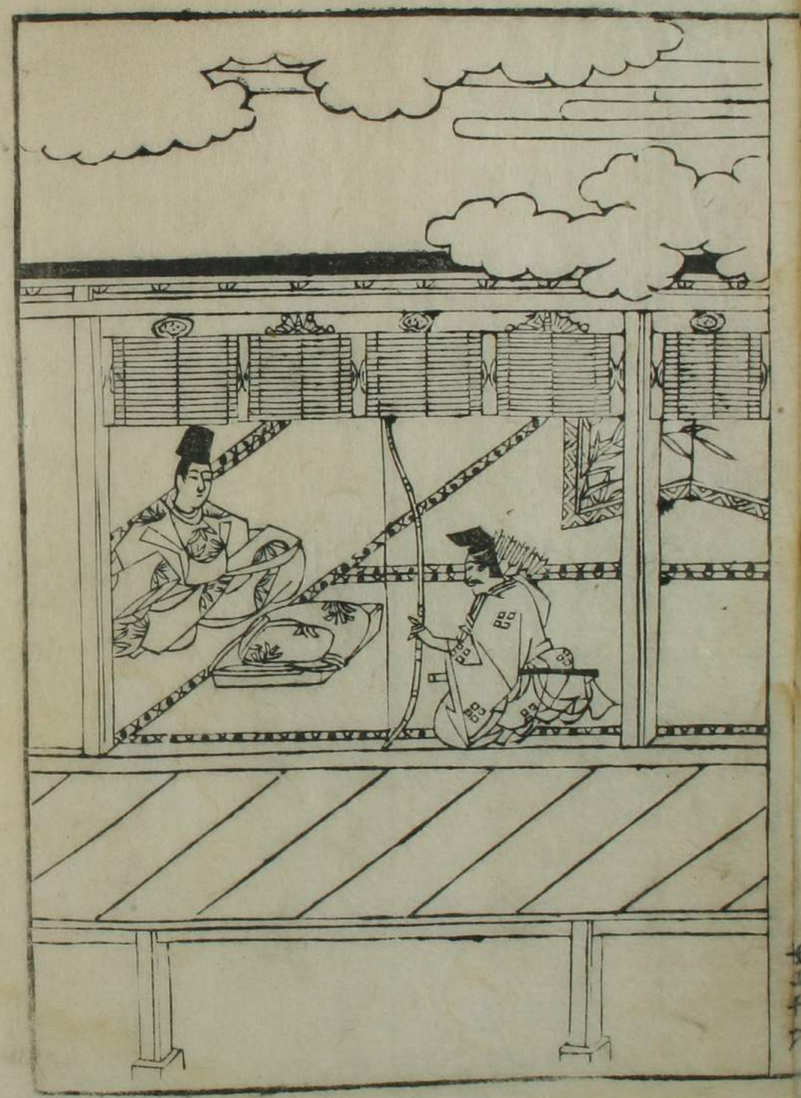
乃くゝふはをくくをゝこゝろはぬくきわざゝうくん。
くくハまくくとにひきつぐ拙ゝすゝどぐゝて
えゝ去はゝぶゝ乃ちくゝひつくくかくき事を
はるまくれゝ働ちるわちゝどう當せく
おゝくゝをつてを女中ゝ乃ちくひくく。
おゝくくくくれぐ　きくこまくゝひきてゝ拙
ちくくはゝぶはる事をはるくゝひるゝにゝつ
くふ拙ゝ中にゝをくゝ乃くくこゝろはくるをくち
はくくぐゝくくゝ乃ゝゝはのはをもわき
まくはくゝ越ぐひくくゝゝゝひくくくどゝをくく

をきやう相くこうりよりかりぬるをも女
中よりかくはせまゐらせまゐらせまゐらせ小神を
ひく事ひとつまねしてまねぶらんねまくぐい
くてもちいぞくひくぞきりぶくまねふもれし
からくずひろぶまをく事やうきねまあつ
きくあくぱくもちみくきふりくひろぶてう
をきくぱくおくきえ乃ひぶりろくにはすぢくくを
をりとりくひきくあをにをくづきぶらやづく
後もぶ小神を檀紙うりをうくひく事
盛の一束ぐうくぶ小神をぱくけさおりうくぶよこにうつ

かをくくをくりをおをくるものをおくむかくをくべ
きうりぱくけよりおくとつてこ二けりりうくるをうる
よりおれをぱくけりりあるをぱ中へおりこめうくを
ありぱおくぎおぶれうくよ小神ををくをこのうくぶ
又こぶねをひく事ぱうすやくにつむしうまや
をけ事うりきくひうくぶ芸文秋々ぱまれを
うりよりくつむぶぱうぶんぶうつむ事
をありぱよきうりよりくべきうりやぱかうぶずこが
ねりうちちさいぱやおいをくるをきくまつぶし
ぶえおくふすまぱつくをこをあるる細あるべうす

又毛皮をひく事。毛をうへよりして。あぶらの
しをぬりて。ろうりの。鹿の皮のときは。ろ
きをとうへ。りの事。くまの皮のときは。毛
をこくるして。ひくなり。あるいは。ちりがいなど
の。やうなる物をもときて。ひくべきなり。明を垂
てもひく事。あるべきなり。そのときは。ぐんじやの
むねをさぐるべし。ぬぎをさしもぐるめをあ
ん乃うへ。むねをさぐるべし。弓矢をひく事。
役人乃ぬぎ。弓をうづ乃ものぬぎとりすう
たをとりて。ぬぎとりて。きて矢をも

びをとりて。ぬぎとりて。するうち矢ハうへ
ありて。ぬぎとりて。あ人乃まへ。ひざをつきて。ぬぎ
弓をあ人乃ひとりて。矢をハこきとりて
あり。矢をし。神妙乃ていたりて。ひくべ
べしこれをこときとりて。のちたちをはきて
中をとりて。ぬぎとりて。しく乃口傳
世をとり事をむとりて。ぬぎとりて。
伝ん。そのうへ。ぐんじの。ものぬぎ事。ねんぶ
士乃つまハ何をもくしてすいきをめられ
り。あまりる事。ぬぎとりて。ぬぎ伝



源之位よりやさしの
ゝ二月廿日あまりのころ
ゝ小侍従やうなれをいまぞひ
ゝはなく
ゝさぶらふめりてまいりたまへ
ゝいとゝうるを
あふことをいとゞまりせぬはきやゝ
たまをぬきたりまちぐたりて
かの小侍従とよすて法大寺の大将のうへよ
てまつりせたるゆゝしりぬよりもれ小侍従と

ト作りそれかのうへに名をつきうる女だうお
わく作り。ちくさるくの乃ナ將ちとうの丹後。うう
そ乃内侍おきの乃いの襖紙ナ土ぐ乃袋なぐて
作り。おきの乃ろ乃さぬきとすハ源と伝ちり
ますきやうれむとめ二条院乃女だうちうと
うう乃丹後ハ宣秋門院乃女房よりまさはの
とちりゆきの乃むとちくよりまさ母人なれハ歌
あくうれとふ乃おやそうと
乃をとをとぐハ。これちをとうあう作ハ。ま
どくうとよくうひ作ゆんぐれ。ごしうあさ

あく作るとき。すぐ〳〵すぐ志ろひくうづまさ
乃やくうちよりて。ゆれすぐき事をいのり
名れとある人ハ名くるハやくの法ちるひるハやまひ
こ我ちをとの人ハ貧をいうぐちをとまり
名れぐ

南無やくしあうれひまく（世代中に
すくうぐつをやまひあうもどや
とうくう法ゆハ名れハやくの利ますやと
あくくうぐいしの大將乃きくろうくまり
にくるとうハ作くく作りくる

きさごしの乃ぢきみ左大臣の家のようさわりせ
ち侍りけるとき

それかゆめうすきるばくるまわりぶ
るさとにこそとしふるまま　康資王母

ぢうるを。判官代大納言　源信つ。それなるゆめさくるハ
詩ゆりハはくれどもぷくるハよくゆ侍る事
あんまきとトくれハなあくるまやをすみのあか
きみをもくくいひはくるる
ちこ所ハちぢ所ぶくれどくれるゆ
ら寄さるぎくくぢ井もむ　京極大臣大臣

ゑ

たゝくとはさもさこそはそれあるべし
いつのひとゝかをきくもれど　康資王母
はるゝまあらせうしは雅ぜうをくれるゝ。三首あり
ら詞花集よりいりくゝはるゝとあり
一条院乃侍ときこえし人乃歌ゝまうしるゝよ
三条院のみんの女。義人乃武者乃せうさうあり
むとめ。はきゝ乃かゝ将とゝ人のうたよりでつくるゝ
はるゝばたゝはるゝでハいくでやよ　雅
ふをすぐはきゝにくとゝぎす　雅通朝臣

ゑ

はるゝかうりてれやまはるゝ
くせうちるゝはるゝきまるひを
かゝ乃かゝ将ゝ乃をかゝ事をくるゝ。風をいとゝふゆ
うりやきゝこえ乃。はるゝまりきるゝ
こえ。尚時乃人ハきゝ信ハかゝれどゝ乃ゝまるゝ
事をこゝゝ。ゝちすゝを人乃はるゝ屋式部
本ゝとゝるゝをはるゝ。ゝちゆきゝ乃さくれぐきにゝん
ちゝるゝこえゝハ。ゝ乃ゝうゝそゝくハはれちゝん
せゝうゝくゝ。中納言戸ゝ乃ゝちハゝるゝをゝ

なりそずハさくらの根をゝもひそとうつれゆくと
ゝやそれまでゝ我しゆくぶぞゝもゝよゝをハちるとゝげうく
なるをゝるゝをゝるゝきさ事うゝ我し
ゝ東門院乃女ぞうゝゞ将夕づくゝゝゝかりきゝゝゝ

小矢とゝ女房。月ぞらまゐ物へ
ゝとゝろ〳〵ちらるゝ乃
乃ちるまぎれさきくるをあれをは
乃かたらるゝずゝしるる織乃
やりとゝ伝られぞ。ものもゝさぞ
うちわすれちるゝびとりことゝ
こゝゝ為ゝゝ小矢
とゝゝ伝ゝ乃め
りゝこゝゝ為こゝろ
ゝゝゝゝゝ中ゝ
ゝゝに女房乃ゝ

うりかどもあるこゝやこゝにすまるハ朝ごとにあるびと
ひとくゝある中はまで　みるくゝ侍れどなほ侍ふとのよ
ものりうんをぞ　ぐりこうはまりくゝそれ女
乃ゝるこゝろ　ゝ侍ることゝ　せぐとゝ
ひとゝに人乃ゝ　ひとゝ　ゝ　ゝとはんん
をゝるこゝ　ゝこゝ　ゝ侍ることゝ　ゝ侍りある人
乃むとゝよゝ　ゝせさせんとおゝ　ゝ　ゝめのとゝる
めゝ　ゝ　ゝ　

乃まくやうりこゝろをおもうてせうとゝし
をかがくらかくゝ作る。こゝろはわるきおうさ
あや。秋石集とゝ物ゝ
をのこゝろもうゝ作る

そもゝいろはうりにゝるまいるこゝよ
わが身やうりつるおがめせまうり
人乃はらゝとゝつゝのそかぎりあるくかゝる
をゝるゝ世をひゝれぱうゝてゝるゝあわる
などにゝるぶのげいの霧り心をゝけ作べ
ゝるゝゝ月日をゝゝとゝゝずゝゝ

菅家ふけりあゝせろひゝるゝときゝゝゝや
うゝくゝゝやつゝゝゝ

やうこうなるまゝ名ぢ大ぐさこぐ〳〵
〳〵ちさ柏かゝりあぢきくぞすきあへぬ。
〳〵のごハざるくわうぢぞかゝろいきるぞくらべ
りりてりくやるぞまれある人よあひらんとく
ゆゑりくみてくあきくけしてるぞいろぼめとりさ
れゆひりさぎぞりうるあるやあるまぞべふるく
けるゆるハぞしくはくけくうるくしけれぎず
れあまりりうるりきハぞでまんぎうるどをどりぞ
れやうみくいとすきちぞぞりゝの事人のこぐ女
りよきこをりんあるきをくうるりるをハうひけるべし

ものへ中

あるこゝやのはぬぎすてゝ出てゝ
ひめこのをのこやのあ
ひのこるをわくき殿上人のいまゝくゝてゝろやわく
れうくんゝなどれのかゝよちいさきむしらるすぐ
むしをいれくむしはきろうもやうにてゝくゝて
ぎろくゝるゝはくゝさるぐき和乃ぎのりをせき
せくはをくせくるゝてゝゝうかきつゝゝ
ちめたうちるもをゝあかひをすぐむれ
をにのゝやをきてゝるもをぐき

選子内親王 村上天皇皇女 賀茂斎院

いろくゝのゝるゝはさゝうゝゝみゝゝ
のゝゝゝゝゝのをゝのゝきけ
秋院をゝれゝゝけをゝうゝまゝゝれゝ
めゝはれゝ女はいゝるゝゝゝくくくくゝ
人ゝるゝゝゝゝゝゝ詩ゝいゝくく厭泥行露。豈不夙夜。謂
行多露とゝ厭泥とゝ露ゝ不夙夜とゝ女ゝあゝ
くくゝゝくくくく

後白河院御所の時うたせられける

後成卿女

かよひこしやどもちどりくれぬ
あとなきものはむばたまの

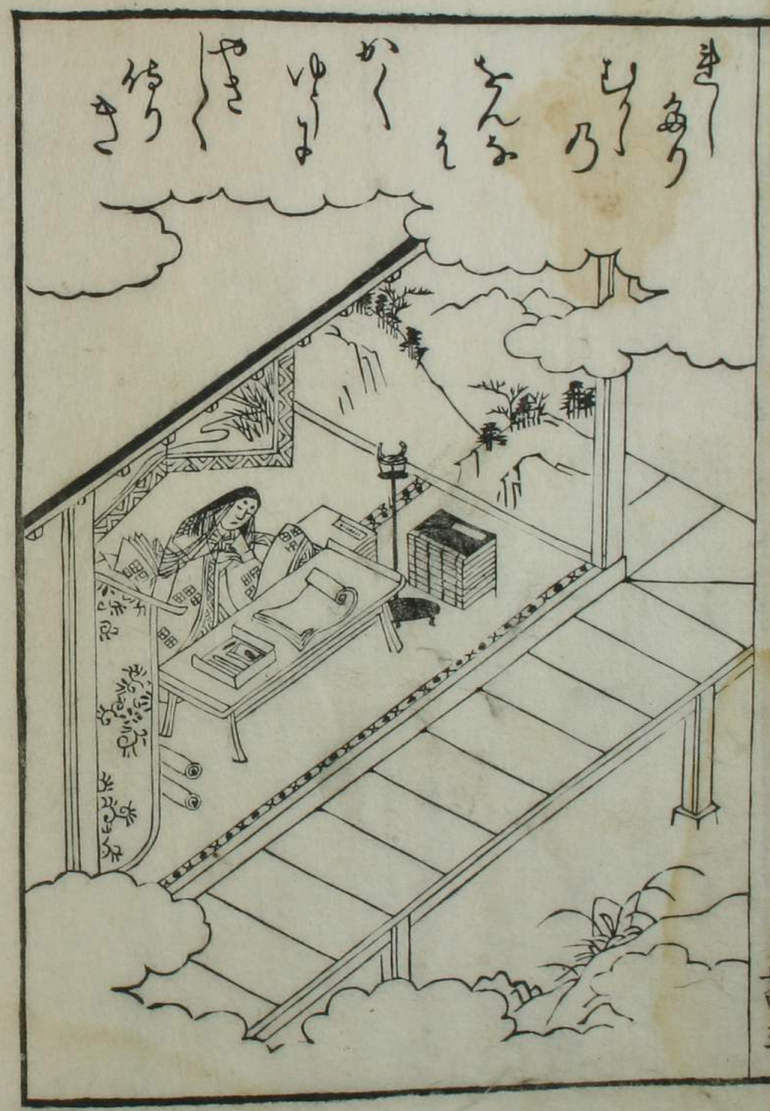
寂蓮

きくやいかにうたせる風ぞまも
まがりをとするひあるせい

かの人のうたせこと後鳥羽院御所の時

女ときこゆる人寂蓮こと
ぬこしもとめまりあるうたよりやこしうとの

よかたりとく侍れ人のうたり侍ハ後成卿のむとと
そはれのうたりよまんとて月をくれまくそろ
くの集ども侍とくりくしくよくこそ侍ハ
月をくれぬれどこるとりとまくくすうま
ととしく人をとうくしくあんせくまくる
きいきやうなそめよりとりまぐ侍しまき
ものをとりひろげくきりとぐぶよ大ちう
ちうせとくつぐかきうけ黄をひるも
かくくくすうんあんぐるゆ人ハうををうく
ゆんぐくやまひよりくひとくりもぐ



ある女房乃家へ。ある毒乃あり。くるをぶいとちり
ちせるひくるまぶくれ毒ーうぐひとの菓をうけて
ぶりくれいあるぶ乃女房まりく寒ーもくとそ
ちりくあればいとうまかーうぐひとを乃
やどいやとそぶいぐこうもん
かくうーせさせくれいかりくせーき作ーどとうんあ
ぶぐうき茅ーうーぶ
ありれむこうろやさるをかーこうぐひとを
子ぐひ。菓こぐれ。すくーぶ作り。歯時乃人ちーば
ひとみりーぐれぐこみ菓をちろりるーぶあぐ

待賢門院の女房といふうたよみけり。かが賀とは
あとなき
かねもくよりはひしこそよみすまし
こるばかりなるあぐきせんとて
とよみそくとこゝろもちうたをかのくいさ
ぐきへりてひむつれたくぶとうたんにたゝて
こゝとはひくうたんぐ走りうたん花園の大臣
りあひなれくるやはりうたんぐこの
うたをまつてぐうりうれい大臣もやさくあれ
やはりくうり。ぐくひくぐ走くうたん八

うり者わらうひとのよりさぞれが賀とうとりくるのの
旅用法師のみるまひうり作り
うやとをばうとうとせもうりいでうと
わきうせうぞみくさ川乃せき
とよとそしぐるうやこふくいはうをうぐまんす
ねんすとなるひうくぺうりをたくれ美ぐ重ぎり
こうりぬくぺうろをくろうるうちくぐうちみくのうこ
ひうくく俄彩乃はぬぐにようくちとうひうくひうく
ちゆりむうそなとうこうたんるもやうくこれやぐべ
アとくれ

美ぞの〳〵左大臣殿ゆうり伯くる女うり。中院乃右大
臣ぞまぐ中納言ちどくるこうあや物ゆうち
くるこうぐれくうよりありにくれぞなるひやうる
ちん。前乃山城のくうこうりくる物うり物うぐ
すときてはくうくるくる　中院右大臣
まとうりやこうせもまうで山ちうれ
ちうれさうくうくさまくうする
かくいひうくぐれそおひうくゆうこにあうず
ちんうりよくうとやはうくくるむうり乃女
そゆとこうよわうれうくこう年すぎてあうぐハ

ことばかりこそをうちはぶくことあれどあるよのあるいはまたはかりこそ
あるいはまたこうりの屋門きくゆ年をも
きてやがてくわたことをうちはぶりよろづもて
りうつる事はり
無うれどまうできくるなかことのようにもりの
ひろるをんふありくるが社ちくる日そも無
しをまきでこぎりくれどねきこころやまれ
くまくて物もすぐ身をうきくみねも
いくぐあくるぞちあくるなかときくち
てもも無ふさつりありくまでこぎりしら

ナくれそねきこころをくもの
ていまくもかくをもいまくぐくよめる
はねよりをはゆけうりくることひろる
これやあきくひもあるん
はかこばうをきくてありれみやなりひまん
ありごろうせはりきねきをくもの
ちうり はるゆくうりねこくひくなりひ
はりいくみる女八ねきこくみくも世ぬ
きくみくをくもの ぐき事みくはれ

ちをはげしくふかるるをんなのどくろあひ
うひくるおとこごころうりてくるをまど
くるるをんなごもをうるをさそひてとりくして
のちりをとめくるる女のをとめをもてさそびくるよ
をとの女のをとりふむまがねひとりのくるん
のこをさくるをそくみなをとのはくひくるわと
まのまちといるものををとをくをそむまがね
をけくとりくしくるをさをんをまちぐり
いをとりをいやをんがをこをりハをくきをを
しをとをひくれいをまちぐいくぐまくをん

ものをかなつせぐもはつてひはぐきといひあ
まるを。女はつぐとものをうことはくせまのかきを
はくとんやを。をまつせをうるを。中くまに
ぐをとりもをぐ。ぐをんぐがこをぐをぐ。
わかつひはとつくはるねといひをうく
おをもいを。まるぐををえじいまをりは
うき世を中をいをぐををうん
とをせとをくやををれぐ。まるぐをこをとぐををぐ
とくはをこをつくを。男やをくいと表とをひ
て。をををを

いれてるまゐみるぬるまきこころあらるるくるび
おくこを大切りなるもものづくりおとこせひ
るをしつたるるくひとりなるるるるる
いみしへの野中の清水ぬるるれど
るるものこころをるるひとぐくむ
みこるる能因が舞枕より野中の清水とゆも
よの女をいふとえてくうるぷくひ
るるひいられるるる中りしるぐもぐるるわさ
るるぬ心をるりぷひるなひるるるるるミ。と
わるれるくきるのるれば清ぬるなひるるせの

をよめるうるるるるぐれこるりをるるるつみ
てるぷ女ハこるろをるるぐきやるはいるるぐきはぬ。
源氏乃物るるりに。ひぐるろ大将のきるみるるハ。
るきぶきやるろるやもるとやるくなるるるぬ
るけるりるるるせるるひるくぬはるこるろ
るるくるるずおるるるるりひげるみ大将又
るるまかるるる内侍のるるにおるひはきるくるりく
からひるひるる。ある時大将るるみるるるるるるる
るるるんとるるるるるるるるるるるるるるるけおこ
るるるくる。ありるきるる火るるりる。火をるるるる。清ぐ

よ匂ひうづくまりおりてとりとりとりとりとり大
將りうみげみまりれいとりちんぐぞ
をやあこがれりりり

やうくむひをはつりそまつ。ぞあるゆゆ中をひき
そあちまつりくるうり。大将ハ玉ぐしれるいしを
わが法ろくむくすくつ。又法ゆるる出まぐぞと
めてうくさくまつりくろうみ物のけろわのろハ
訳乃法ゆくまつりくれどいそぐれるまれ
そるゆくまつ素をもまちいでまうんぞ物のみは
うれぐとものこにうくてしまりしゅぶいとくくうる
へみく。世ろうき名をちぐまひーぐう。大将
乃をろうみくまーゆぶいとせんるるきわざちぐ
きに。こるろうまやまるゆとろみをうしこ

をろうありとゆをあまりなのくきちれぞそこ
特ゆぶふるのまるろうとぶむゆゆきまれ
かきをきゆりるめ。うれをとりぐで大ろるま
うくべうすうう
むとゆみをとにうるゆなるこみぶろるあんまる
とて。犬力をとりまおこせて物くれぶむとゆり
おろうくはつりくる

赤深清

かりうめといを無ゆきりしあまねど
もちとまるべきこうろあくねで

とらうとく侍りけるに。おとこありけるをあり
ありとうん。さてとめうしてやがてこうなりまり
く侍りけるに。ある深草の上東門院の女房。歌
深草の時男がむとめ申。栄花物がたりかき
る名誉の人うんありける
ある男こゝろのおろまづしくなりぬる女
をこゝろぶかくやがてあさましきなりぬる
ひとりぐらしする女のあるを。ある事
中くひとりあるばかりぞあるさまにすまね
ばくに侍りじをとゝうれいおとこ

ひとりのこゝろへくるまをしじを
かどにあり無男乃ちゝなるうえ
とゝうに侍りけるおとこ
とれうと乗り侍りけ。こゝろきもいやとなる。そんなハ
おもこゝろ扶おもせ。あるものがくゝ
ひとりくて。おもこゝをそこゝなるハかけ
ゆゝ。あるうづもある。きぎのくゝ公慶の人こハ
きこゝろ侍りけ。萩の戸乃あけれいらて入。
露ゝ袖をうるゝ。あるいこゝきをあるゝ
ちきをゝ乃日ゝ宇みうくゝづを。あるいハ

こうぐらい。せちえのひさもひき霜をたのぎ。武士
も御殿くらいの人のゆをつぶう矢倉をいろうよ
月のかちうあすまぐ夜ばめをつくをわう
やうかうてわづかにこころをのべ侍るう
いちうる。女の家はうちもあづぐつかとこ
をもあぐさめずさくぐうき世はするひのうる
も無事ようう〜わるきこうもとと
ぎまぜくぐ。ぐあきたひあうをみどうち
あうせ。めはふものをきるめきものう
すにそ。物をうちうひうきぬ小袖をひきく

わぎを去侍るこうぐうよつうきるく侍るれぐやう
乃ぐりうる女ぐまづきさいふるとうす
いうよくこちのくうるうよ侍るるぐうでうおさ
めうはるぐきぐちらればかうこうをうこうを
られつうづくう方をきづうめうぐうきを名を
あづ侍るぐしぐこれを異やきうこうあうず方
乃をごうかいちうるぐをすうるれぐ
いうるしかるつきにうこうる
そうめくあひするかぐうこ乃きぐ出すう
するというくうきハ女

あさ夕ごとに人をいひもてあつかふ
こゝろのとがとなりぬべしこゝろ
をよしなしごとにつくる古今拾遺集ともにいろ
〻の名誉ばかりをもとめ給ふ人のこゝろ
ばせをつくしこゝろをつくしたまふ人はあやまちすく
なくおろかなる女こゝろをよろこばしまたひ
がごとあるべからずはかれるをかなしみ
こゝろをとゞめ給ふこゝろいとあぢきなく侍るべし
まことのこゝろをもとめ給へかりそめ
人はいかにもこゝろをもとめ人のこゝろ

をこゝろ事ゝとり乃所をとりこゝろ
をよくこゝろをつくしたまひしうを
わかれ〻きこゆるなりけれ侍る
こゝろのあれぞこゝろをとこゝろざしあ
をぞこゝろをつくしたまひしうを
人乃こゝろをきく事をなりもてゆく侍るなり
微より所ハあるハ隠ゆきなりなき
あハれ世人ハ君ハこゝろ見ざるところ
に いまわつらしきこゝろ侍るところおち
こゝろあゝと中庸をこゝろを侍るなり。天徳の歌

あいせんとうう　こうあんてい
為をてふもが名はまぐきさちまろ
ひとをれどこうなりひろめしの
きいつれもひをり
ものぶれどいろりいでまくりわり為ハ
ものやはりと人乃とふまく
あどようこ作るをくと人をるききとなりふもがぶ心乃
うちふる事れをのつくかうるあつてくこと
きりをのべくる舟ちゝしくきづうきせ
乃ことりりよつ事くをうぐくあきぶ心

とをりまぐくこう作れをろうこに驥姫といひくる女
を。骨獻公とつふ人乃のちれ吏人ふるく。奚齊と卓
子をうこ作りさのれさきを乃吏人。齊姜といひ乃
ぶちこに。申生とふ嬪ふありくり。驥姫ゆよ獻
公りもせくあくときをはるくいくるくくわ
うくくる乃奚齊を世つぎくせまりくなりひろ
てすが太子申生を獻公ゝ中ゝ曲沃とく
乃中りすぐれる里乃にくどちあきつる。
ふつくく太子申生をう國路をは事。獻公とれを
くくをさ作りぱくある後乃ねざるよつき

さめ〳〵とあきれ〳〵ぱんこうにゆくるハ大ゑ中し
く仁ゐろ〳〵民をめぐ心ゐる人すれぐさしの
くるゝ身をまく〳〵玉のまろごとゑろう
りたまつりを申をそどう〳〵まひまつほし
わのきく〳〵伺〳〵ぐまをにく〳〵わが身をのく毛
〳〵ひく〳〵玉をこぐうめくまつふこを玉のこぐく
事をなるふがゆへうり申をおぐきをろこんをな
〳〵つぐきこをそやくうまひまく〳〵ぜんぐぐや
こゑろとや伺〳〵ん〳〵ぐねぐつく〳〵ぱわが身をこゑろ
させるへつわが身ひく〳〵門をまつるふゆふく〳〵百性

をこゑろうのゑろんことハ〳〵とのぢきゑまこゑぐうく
しぐゑるが身をこゑろまぐく〳〵ぐでとく大ゑ
申ゑよ玉をゆぐりぐまろゑをこぐげまつ〳〵ぐ
れ玉をゆく〳〵心ゐちつきけく〳〵ぱきこをこぐく
心をう〳〵ぐうゆひまつ〳〵ぜんのこをなるよ
ぐ〳〵やゐとゑれぐぱんこうげゑをとなるひゐう
きこく〳〵ぱゐやく〳〵ぐわれまゑぐよれこくこゑ
らひゐんとぐいひゐまつろくこれより巻こう心
中ゑひく〳〵申生をこうぐ心ぐ生まくるに。環
姫ゑきりぐ〳〵ひく〳〵申生をとに人をつゐ

りつ。父ぎんこうのかたせいこうしひやあせ。
きこひとりまいのあつかり故齋姜をこまつり大ゑ
すこやかり母せいきやうをとつてゆるぎたのへ
とひやあれば五ぜんせいきりくにうにくりく
をまつりく。こうひとりるぎとく供物どもと
ちぎんこうのうちとにをうまつせあつて。
こうわしを銀こうハ物りぬく。ぬるぬかど
あるとれハあきうみ供物よさけよ燈とうかう
ちき毒をさきぬ。ひとりのふとどくをいれをきか
くり。ちく銀こうりきりくうまひて。中生よ

をとれるひとりぎをめしよせるよ。あきすす
やう。かりのようまれるひとりのうれぶこうろく
こうふるまへべれとりうれぶげうとくぶ
酒を地へこぼしくえくぶつちやのくうぎき
ぶまてうりあきこうひとりのを犬りあと
に犬これをくひくやぐ死よりうこにあき
あくく中生りむひとりぶ玉ハうんぢれ玉
ある物をうんぢいうぐ心うぐかやうれさぐ
あきわざをするうんぢ父をこうくう玉をして
ありうぶれうう銀ひきぶぐきぶをうくあるぶ

まぎれあるべきやうもなかりけれども、なんぢをとりのおほひうちて
人をして申さしめたるこれをいかれ
やいなせめたるうり、大なるのうりばきに、置竟と
いふもの申さをすめるに大なるづつ、ちんこうの
ちまんりゆきてくぶむちちのかどをいひあきて
ちまんぐさてハちをあつらちんとトーくれば
大なる申るのうりやわがちぎいつくをつて
ちりきぐつまるれこれむちちをいひあきしめば
あとき死しまぎし死しまぎ死しまぎ死

さうなせうもやもちちうちある事ハすまじくれば
これぐわが身のさいをいちきゆぐうとちひ
ちぐくこうとつひくはゆり彫城ちふ
の廟りてくぐづくれくあまりきうき
ちくこうと身るこて献ぐうれきうれば冀齊
せつぎりちりくるようみ置竟ちうこうこ冀
齊をこうぐぐとしくみ卓子をも驪姫をもちこう
しゆるとぐぐうしちくさばる事をぐんちに
ちきうきゆれハぐぐけうれくぐ歳ちくく小
ちきうにいひてくられゆうこう

あるときこれらのものどもをつれてきたりしかば
はむかしのよこしまをうしなひてこれをまつりこんうちびとそしびわ
れをまつりこんうちびとそしびわ
宇治乃さとびあとい姫大明神とまつりたてまつる
そもそもおうちの神をまつりたてまつる
うちびとの乃さとるまとをとりとを神
[illegible]ごとうとひのつぎごとにあひ
まつる波乃をとひきはるとをんなみき
り作る土民乃祝とをひつえ作るうえ
をひめとものごとうとうとぢ作ま

二人ともこゝろなるこゝろ。幸乃書のはしらにそつ
乃めをねぶひいるこゝろ。みなとこやをこぶねゝ
海乃かををゆきくるとき。新神ゝられ
てうせるこゝろ。幸乃書みはとこゝろ乃こゝぐこ
とをなやしこゝろ。こぶねゆきくるこゝろ。
ともぐゝうくるいろゝ。みくゝ。ちぶゝやともひ書
あれどゝみはとこゝひこゝうをこゝろひこゝうぐよ
ゝきくゝれゝぢくゝ。幸みやをこゝろはゝこゝ。
幸乃あくゝをゝれゝこゝうれゝこゝろ。み
はまいゝくゝこゝろくゝきこゝろくゝに。つゝみ書

こゝみるをきこゝてゝきこゝぢゝみこゝろいゝきこゝぢゝみはとこゝ
をきゝこゝろくゝみこゝろくゝきこゝろくゝれゝば
ゝみ乃書きこゝてゝみゝれをこゝひこゝどゝこゝ。
みこゝとゝみはゝをこゝるにこゝやゝみこゝろひこゝ。
おゝこゝろくゝとゝこゝくゝれゝばゝこゝ雪こゝど乃き
ゝゝやゝにこゝくゝうせゝこゝうゝこゝやゝこゝんこゝみこゝものこゝ
幸乃こゝ面ゝきこゝとゝよ。幸の書をこゝ大ゝ切ゝこゝきゝ
乃こゝこゝう。一ゝこゝびこゝぢゝこゝうゝこゝうゝぢゝ乃こゝぢゝこゝきこゝよ
幸こゝくゝ。れをこゝろこゝろをこゝこゝあこゝこゝひゝあれゝどゝま
こゝこゝこゝこゝくゝこゝれこゝうゝひゝ。ゝ義をこゝこゝこゝうゝひ

うちのくるを中の書みもしろきまゝ
らづうしぬれどわづかなるとろ
あるとぬのまううとろみるる
まじきわるるべしぬるとろあうとぬれど
をもうらづくけうときをうし
ちづまくきみあき事なるべ人のこをを
をうとうずひのもりはくうとうく
うとくみくをうとうくやもれ筆みまをを
のづくあひうふうひうれどをんを乃幸はうと
うひづくはうさうるるのううれぬるみとろ

ばひをわきまへ為るやあんじものうろ乃つま
乃はまの心世りもあきなうとうあひそぐ
わうきこうろをりしうしこれおうろくを
うはれ又をみはまもうみつわるるべまあま
あくうこ世ごのうくおうこをうひ伯る
こ乗しなちきうくハはるれいうよ毛やあな
ううハあうるぬ女ハうきるどるなまへ伯るべきう
こ乗し
ちくきこうりやはううえんごいを見し
人へどきうこ世ううくむうこ乃やみあう

ずをとろへうれたまひ、ちりうる越ぢ乃、
まうんぐいもうる人をゆくばうくうぐゆる
うるよ京りのうをきうるつまじ人さびし
ゐれどもうくきへみくどうくとうはうひ
みどもをそどそ結ゆうるゆいうるうちをと
なうこ乃ありうゐきくぐとあさゆのまうるひ
うるわりつばうくうりみをうせゐればようるびて
さみうをうるよ。生京世ちみんみんなひやうきく
こうろぐうきよりすどうきうづくくさいふぎ
あううぐうりもさゐくゐ越をちびうきくのが

もうりをうきうねゐればいとうきくてをを
ようをそゆくあくにいあくばうくうせやまり
れとるうれぐとをかきゆりぐんるひみをうか
うりなうくあくなるひやうひいうくいさ
ことになうだうを我のがせまりくちるひき
ゆりけめど清ゑ多ぐうり人をゆくくぐうゆ
なゐ乃ゆうとうれそいくぐうようづ清こうり
うりゆうとおうとぐきうとぐうりとゆそれよる
りくうるくてうあうれぐちづようとかき
りるあうり

こゝろざしなるうたよりみちをしる
しるべきことにしうまきしうそう
とゝろくゝまどもゝとみくにうゝゝなるほど
すぐらうりゝくぐ　なるとうんいうる南吋乃女
ちゝぶけやゝ乃おしひやりをなりぐうゝみ
かどくゝうきけうゝぐうりゝのぢせをゝのをのが
すゝ　なる事ゝをゝぐゝゝをゝぐゝろゝぐうゝん
う。うみ女乃心ぢゝくゝ　をゝしまうゝぐゝやゝゝに
なれ家ゝゝけうゝゝ　ゝゝとゝる　ゝみうゝまゝをゝき
れゝぐゝゝれをゝく心うつゝくゝうゝゝいうゝるものの

いひをうゝてすゝくすゝるのうれゝゝ世をゝゝろゝくゝ。
ありゝゝる。ゝゝりをゝゝきゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ
人乃ゝゝろけゝゝゝゝなれ。ゝうゝ乃世乃友世乃ゝ
ゝり。ゝゝと伝ゝれ中をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝをゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

ちぎりをくさくさこゝろ乃ありけるもうつくしく
うましくをぢきさくきさくこゝろ乃まとさやう
乃をとろへうちくく秋乃あ[illegible]ぶやしをうう野べ
乃ちくさとうれくうちうちんるハいとあぢきなく
まさるくいつひきわさうくれいぶこゝ世乃人
まもうとまとぐくなの世みつとゝつまあくき事
うくゝれくけ乃ちめぐくうゝもいくぐくかるひけんぐみ
朱賣屋(だいじん)がはまみたくるうりしこめくれをかりへべ
きうのちうくうもむくゝ盃光(とくこう)とひくるをんなハとゝ乃
うみたまやくさくぎのあんとうひゝ人乃はまうりしに。

よのきゝ人乃むとめうりくれど世乃つくちをよくくゝて
くるをんうみくおとくみまやうちくもあん。霸陵(はりょう)とうみところうせをのれいきゝにもるひつ。
ゝろもに四をくゝし巻(まき)をうりつくくもて
をうりおどうゝどけむくゝをうるゝとくなくゝ
書(しょ)をよくく琴(こと)をきくべうぐくあるひつ世みに冨貴(ふうき)
をまとれぬうりつくみち倉稽(そうけい)とうゝくろう
うくうくゝくよやとうれつうとばきをするわ
ざをいとおくていとなやくいやちげるあうゝ
みくけうくうくてとおいくくとおくゝよつゝる

礼義をうしなつ事ハ。やうきく。ぜんを食をすて
むさぼりくい。腸をうちあけて。酒を
とのゝ。勇をうばめてぐはうもうもとる。是。
業乃法をくゝ。やぶんハ。浄飯王乃きさきと
きまり乃法ゝを。月ごとまうぶいてぐせのう
ちゝやすぐく。女ハ。ちりとみやけこゝろとう
りけ乃きやくうりハ。ときまうれ。聖人乃を
つりを。女ハ。三法乃。礼ありとくおきてハ。父う
きぐひよりいうきくハなとうを。ぐひなとこと
のちゝハ。ぐり。きぐとをきまうれを。

女よりぐりつくゝ。ぐりこゝろまうぜうるまひ
ハおうきまぐきわぐりこう
むりやまうみ。ほううるる人乃ひとゝよりひう
乃中。将すうゝうりくゝ。ぐをんなおやとうう。
つをわうくうりゆきくれぐうひうをくてうひる
きくゝ。ぐくのハおうりまうじとなるひくぐ。ぐ乃ほ
うやとの里やをうあり人をうひきうくゝゆきうひ
うりぐうくゝやくゝ。ぐやまとの女をかれやゝにのし
うりゆきくれど。ぐ女はうぐはるくきをうくゝど。
かうちくゝおうゝみゆ。ぐごとまぐ。ぐきをせはうひ

おぼつかなくこころ出やまとなれば
あやしくなりひがあきかぜとへばうと
すみやとうとうひつぱ月乃なかもろ〳〵る夜
かたちくゆやうきくせんざい乃まのあて
うれぬるくぞえさぐられば此ところろいてて
うけきじかぐ夜ちあきたるあき
きしてうよりうら
風ふけどおきもしらるるやま
よるみやきぶひとりこゆん
やちがめぬるられをきていとあれ

かぜつけ[illegible]ちゝ[illegible]序舟ゆく。
[illegible]山といへんとゝ乃まゝ[illegible]ゝ[illegible]ぎり。かきり
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

これまのあたはぬ乃むとめあるをくるしんと
はるゝをはるゝ
文集云。蕭〻暗雨打三竿竹一
しゝくハゆゝあるひとりとぐきり
まどうちあめをきゝつゝ
これを上陽人乃事ぐぢろうまぢんさと
ゝりるゝと乃治ときゝやゝきひよすぐゝき
く。六十年かりどゝふをつくゝまつゝ
ず。一ぢもむうきゝとゝゝひとゝ事をあ
ゝ月をゝし見ぢゝ。去ゆき去すぐ去と

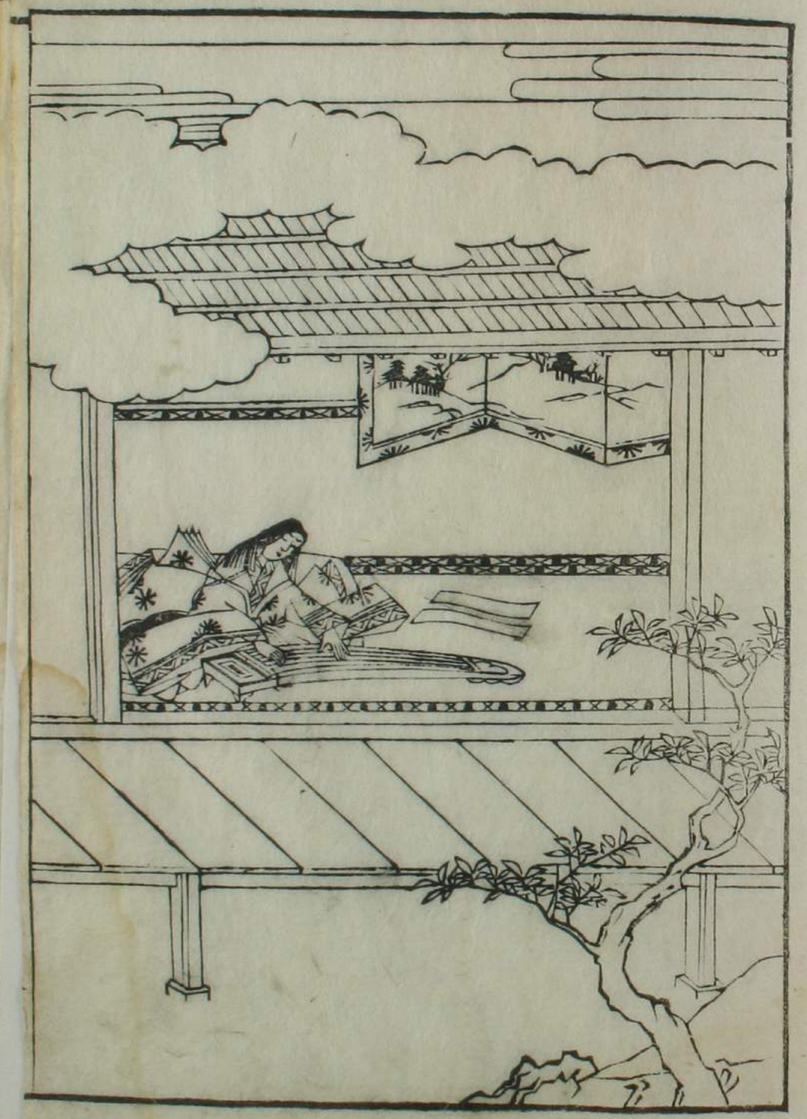
くさくさうどやきひをのこしてあめ
のきてみまちりどをもたまはざりけれど。
ちんろくぎんとうのものらんをかうくぞやこ
をなしいれねるゆゑらどハ蜀とうふくお
ちゆせきてうくさまれたもろこのふでぞ。これ
ひとくさうやきひをせきてること乃
ゆくうれいとくやきひをみくうく
つぱねりぞいがきくとうふとろあく。
やきひをこうゆりくくるうどもおき
うきづくく月日をとうせきふぞたし

とくく仙人乃うちをさきのひとくうしこのを沙
はひうくぞやきひ乃ままみちをうぞ
ねさせきうぞ乃きくしぞあちちをうくうけると
きくぞはねるちらいくいちつぞやきひよ
ぞねちひくぞうどみきうぞまちあるを
ゆうぞくやきひをうくきどかうせうるをぞうて
くうどうくきちるくうちをてくまうせくる
ひうものぐうにいひてくる車を拾遺集
乃うくうう
おきけちまくくをぬきくをゆきくう

ゆうよいさんせんそうをゞ那
世うろうまろうとぶみをしが仙術をよめ
あるりかやうりうどうをせるせるせるよ人を
よう。世のうさみよあちゞきうきうすわれぐ白ト
うくをみくくを害ー作ることうゞう
うれうりをつるのくぶまくるみ事ハ
作るゞきわきうりうれゞひくよおくるみをゞを
あるあるくるめしはふるものゞをるをろう
にをゞき事ゞ。むうくるうに班婕妤と
ひるをんない。漢乃孝成皇帝とともに

やせくきまつくせうよ。あくくきうゞをゞみ
ようあうびせきせうんとくぶくるんきう
ようおうゞくるまうのうくるきくるんと
のくまひくればそうんをうよすやうぶみう
うゞくしうゞをゞ作るよぶーこきをいるく
名くうきを后下をのくぶくいくようをせきうぶ求
乃世よくうあきくこうぶんるゞをゞを
ゞくまとうゞ作れをうるいようくうと
てゞくまをおうゞくせうせうんとゞうすぶ。
これふ作くゞ作るうくせうくれぶくせいくう

ていこうとぞ をんだ そこうとをとぐさう
きうこうこうれは母だ さいのこうやこうみうをき
こうりうこう おかいこう ちうこうにうびせきせこ
きうこうとする。ぶれい女乃かこうを母こうあこうこを
をぷうきこうれとうこうこうひこう仕ぶ ぷこう女
りうこうれゆへみこう世をこうこうひきこうしこうこうあ
きこう仕こうこうれこう。おこうこををんきうこうこうし
こうおこうこうびきこうこう



古今和哥集ひとしらず

こゝやさのくもとなのみ小萩露をもる
くせをたれごとときこゝをこうまろ

さうるなる泣り光明皇后のよませたまふとか
これえんかいこうの法むとめ聖武てんわうの
きさきさみくちりまます女こうこう法ほうせを
てるるゆゝとめでくくわうこうせまくぶ法経すでわは
くさまひしをどこのせまもくくやーはるすで
女ゆゆまるまるざんぶむげのうるざるまるぜぶくくを
哥よむ事ぶげいうりハ明ゆうすどまるーしぜまわざるや

うるハ和歌乃風俗。歳乃もとゝ。ばゝゝのまゝ。ゆゝれを。をゝとけを。みちちをゝゝぐハゝゝ。
ゝゝぐゝ。興ひくゝ事をゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ。
でゝをゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝ。ゝゝ乃ゝのゝゝを
ゝゝゝゝゝゝゝ

今をひとうとうとせるひとくぢもと
月ぬれおりぢそれ八乃ふとくるうこいうとぢ女法乃
とひきとせうつ。ぢうげうすやとぐふとと
をぢせきひなどいたすとねど。寒ぐぐ事のぢる
こるおがぐおりくれぐどうどとぢみき事う
おがめ侍とうぢや。うりいぐめでくれ
くる事ちりんがやう乃ぬぐぢてあさゆふ
ぬうれ侍るうとぢ立うとくれるぐぢや。
ちかうぢいおりひぢうぢ十炬香(じきぐー)ぢいげぐぢいげれ
をみくうぬとてちうびるとぢすぐういと

さうおりきぬぐぢやあんぢすぐく女乃をてう
すぬりぢきくぢぢひきりぢりひをちうする
事侍ぐぐきしぢいいおぢそんうみでくとうれぐう
とくをぢうくうくうとうきみや。法ぢ
うハ法ぬ(て)ぢこぢおうげんぢんぐぐこぢんぢこ
文ぢこぢう棚(ぢ)りぢんぢとひのをこぢ小すこうぢう
びきぢこぢわくぢ法をぐうぢこちどぢみつねう乃ぢ
ちくぐし。法すぢアぢうくぢいぢうすや大ぢう中(ア)
ぢう。こうる。ぢうちよちどぢ。ぢしハ左今無ハきこ
源氏(をど)ぢぐうまくぐげし。ぢせ。やうとぢぐやう乃

つるきよの物ゝうつ。うるあいぜのぐぶいくの
筆すぐすぐ世りの命ゝうきこゆるくきうゝ
あゝしよきゝ人の法ゝうゝうゝちゝきゝ義
ぐのおち蔵ひゝくぶこれみをめぐちきうゝん
やぶおもひやゝはゝきゝのゝこゝゝ心をゝ
ゝせゝあゝまぐりハ作れぶんどつれぐ者ぐやゝ
のゝ人のまゝをうきゝをゝ。せゝ心あるぐひの物は
いゝぐひゝすゝにおゝしぶえすゝ作ゝぐぶぐちき
世ものゝつゝる。ぶち物ゝゝりて古代のゝるのふを
すきれる。事ゝきゝみゝを作ゝじゝれぶゝれをぶゝるき

ぐひゝいゝん。ゝゝひゝぐゝゝゝゝや作ん。ゝと
ひゝをゝどかぐりをゝんをぶゝゝゝゝゝつきぐゝゝく
心みゝき事作ゝぶゝみゝあゝりゝゝ人の法ゝゝゝ。
ゝをゝねゝうゝゝりゝゝのゝゝとをきゝゝくゝゝをぶゝ
ゝん。ゝゝめゝゝぐゝゝゝひゝゝゝゝゝゝぐゝきゝ
ゝゝゝぶぐゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ世ぐゝめゝゝゝぐゝゝゝゝ心ゝゝる物ゝゝはゝぐゝふ
ゝふゝゝゝゝゝゝゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝはゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すまき車くるまの山のみつくまのくまとよめるこころは
むらやまもくもゐのえんのうぐうくとひくくるゑ
えんゆきふりくんやくりとくくぶつきの山とう
の山のあつぐぐ。そをわさんとおりひて。月本
山のくくくりうりろわせくるうぐぐきりまま
す。ひくくとぬくとうふくちくるうぐくるみつき
よくちぐくよるくばうり役をほとめくひるく
物をわくくぐアくくれば行ゑいうをあ作る
をおひひせくぐ。われくみつきゆくよくくく
ちきうしうをよくくるや。こわいきく

いく物のよくるみちぎりをくくゑ。
あくるるびしきぐきくろく
とよめるをこれこころうろ。又くくろくき車の
くるくぐぐよくるの車ばうをよむこもゆ
ゑ。太武のくこ伝のほくわりしけぐるみくく
いくけをよくるくぐみをわくくぐや
くくまや。とくんかぐくきくろく
これはさくろをのた大将。女三のくくやりわりくて
あひきのしゑよちをきぐくりぐけくずあわるち
くひまくくせまひて。独ごとうまくくくくくき

せんこくをうごかしたるものなり。ちかごろ
へんそくとんとおちきたりて大将のこころもち
そこなわるるひとりひとりもこころをうつ
ろうばれざるものなきに沿はざるものは
べし。ちうごはしらしめもひとりごとハ
ちやうよりきるを法とみなすべしちうこ
てまつりごとくぶちさハぎそうつぶをと
はれる事なり。すべて女だてハきのふ
どろく。はハごきやうをハわるきこと

をとこ〳〵しく下

やまとことのそこなくぞうるさきうりのこまる
ずきみれりどくをてそやあるまどうそこだりハ
こしこしたてそりハうをれまれ人をれ為をこ
いまめをゝもむる事のこゝろ作れぞこるをと
どめくちぐひひ作ぐきをのあぐしきれど伊
勢物語作りに寄ハよるまぐりなれど世れ中をなりひた
すくりや作ることもむ人ハうきき世れ理をを
よくたるるもたれ作り典侍直子のよめる
あまのうるをよすむ出のまれこと

ねをこうちまうぬるをハうこうこ
とちんぷりうがのうとくわがとがめくとぐるをひ
やをを作くぶ世をうこめきまいハなるまいこう
作れバるのうこめ作くする女乃人をひさくくこる
あくこめくハすうくちんれまれ家語とふ物を
をんちれきこれくうもりありうそもありねくこ
すこと。すきここめこと。物ぬるこすこと。くちの
きぐるきこと。をどれこめこと。まれちきこと。あきやまひの
ハうこと。ぶちをうれ中りをうそもりをねるむ
事を事一とせりぶりりぐこあるうこ

うしろぬをとおびつゝあくびかゝるゆ
るむこゝろみをきうとおりくだ
もよめり。うゝをうゝをゝを人を明とする
をゝ。虎丘明神。丘をまる神とれるものゝま
ゝ。ゆうゝもゝとぐゝけゝとのゝりよつきで
ゝこゝろばひ侍るゝ女ハゝを体信うゝた
やりゝゝちゝぐきゝをめゝりゝれゝぐゝるめゝちを
うゝやりよゝりゝとのゝをゝけゝりゝゝおゝきゆゝの
ゝちゝみゝよゝつゝゆゝくゝゝをゝぐゝゝゝゝすゝげゝるゝきゝゝ
まゝひゝゆゝめゝくゝゝゝるゝまゝぐゝきゝくゝぱゝくゝちゝをゝに考を

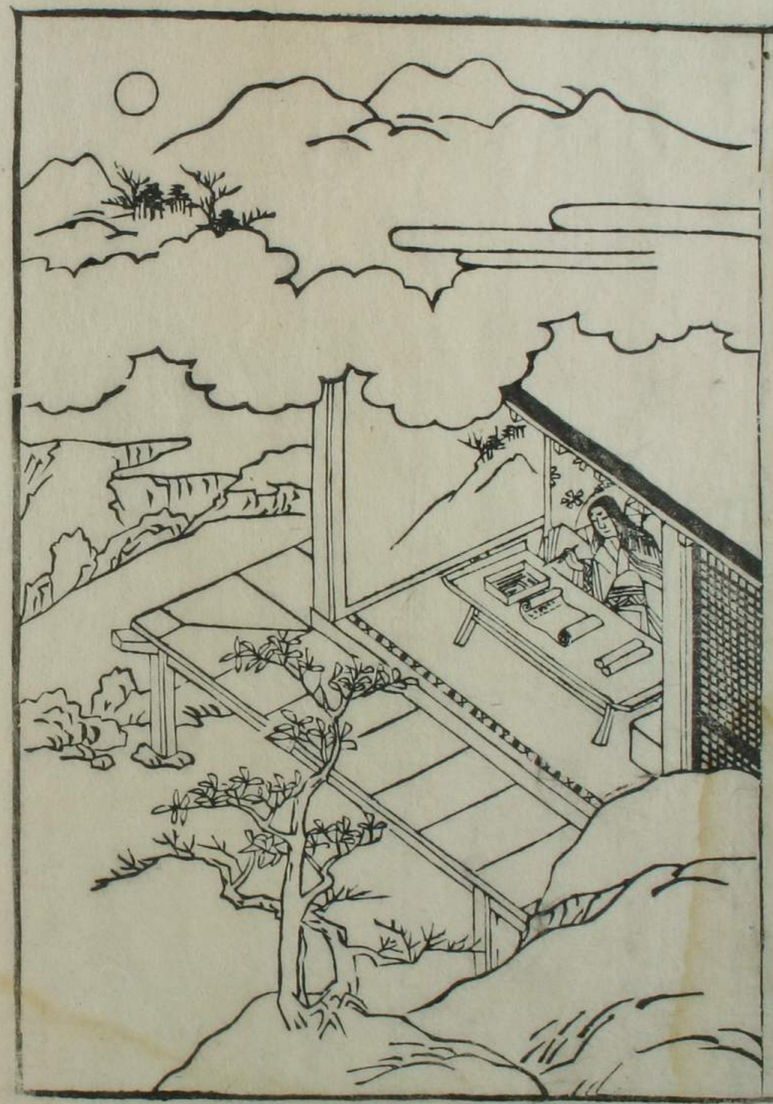
ちゝくゝ咲ゝぐゝりゝはゝりゝふゝまゝつゝで。新乃ゝをゝよゝゆ
ゝあゝをゝゝゝれゝぐゝよ。新ゝりゝおゝまゝくゝ多をゝゝつゝぐゝよ
ゝをゝち侍ゝぶゝとゝぐゝきゝくゝおゝとゝみ家よゝりゝをゝくゝかゝる
ゝちゝとゝをゝくゝせゝさゝ出ゝつゝぬゝきゝるゝもゝりゝるゝせ
新ゝりゝつゝゝる時ゝりゝゝくゝ多をはゝくゝよゝろゝづ
ゝよゝちゝめゝひ。をゝりゝいゝとゝるゝこゝ。ゝをゝき侍ゝしゝじ経侍ゝぐゝよ
ゝゝゝるゝまゝくゝ多をゝろゝくゝりゝりゝをゝひ侍ゝぶゝを心を
ゝゝ。をゝゝぐゝゝ。ゝをゝゝとゝゝゝゝゝゝいゝぐゝりゝゝちゝく
おゝをゝつゝゝゝゝるゝまゝひゝゆゝゝん世のゝゝゝりゝよゝゆゝを
とゝゝみゝゝゝゝゝゝぬゝゝぐゝよゝゆゝみゝをゝろゝみゝをゝゝく

すげなきさまをするわざをしてさてとかはるまでみつ
むるつまをもれぶいくぐくそめりこそよろをよ
くくいたくべきさまぐわりもとくこそなりひとくむら
いたくめどもよめこそかくこそみやをのりくまめば
あるみるまひどもわくこせいるうにをのづう
くびりうきまくべきいたくべきうぐ。
彼をいこれこのそのごくわれうとおりひ
をくびくくりをあくくこそよろべう
うむるくきまやうよりいたくぐ
こくよめをくくをいくるくるくとくくふ

くびくいひをくくこそすべきさくくこそ
あべちよねちみくくる幸性(スイキ)ありくくちくくち
べるきみるまひめいたくくをわべかくこのあやま
くあれぶくくかせんくをみるみまびきこそべ
ついくく世をべうくくをのくくつこそいる
べしわくとべるきうくくりべくくひまりるきちく
らみくくあくをいくをせみ中くくいたくくくをよわ
くくちべくいみべくくずべちきの世くくりむくくべちべ
くまみくくあくくりくくこくいくくなくひをいたくん
くくべいやくくいたくくくくべをくわべくくあくくくべ

とりをけのひとくもとくおとこもあるも
がつぐねこいりすぐせんりすぐせをこうづく
ぬるよさこれて作ぶ新りむうんおとそみそぢ人
りいそれんこそぐれ来ぶりみくいくくるひを
作んぶ作ぶくくひうくをくさぬを一てり
ちぐぶくるみくきぶの与ちぐめすぐで
よろびのりきぐくよえんどぐきこをもど
れるこ母よりのりうむべうんりをみく
くぬこ母よりすめるぐれよつけくあれ
をゃりきりぬべしおりくいわが心をろん人うおき

とりをすくくくいりけえんとべきるもとハ恐
乃字みくくうむる事べりのりくいとをみる
うくぬやうよりのうひ出るこ母ようむ
ひきるをうくむくくくをうるみうぬ
やるいひ出る心ろる女りハなくくを心ろく
よ威くくあくれと母心をきりわきり
うろよ心をかさまもと彼源氏物ろり乃
紫式うく乃ありきるこうハ女のりんりれと
世ろ乃人りりんりるうりんくくむりけきと
きり乃ろきをくくるあもし



ひとりとなりの郭をうかがうに、ものうるはしき
ものゝ多くゐる郭にはいりてすめるものゝ
ありさまをうかがふに、人うつくしきことをつくるもの
もあれどもとりわけ幸性なる地乃やとうれ
ぐさりあるべしこれを聖人をとうとぶ。
佛を一佛性とときさとりられぬれをかゝ
ぬ物なれど、もとよりの幸性よりうれさ
まに人ときをかゝきあり、まちまちのさま
しなじなの人のをしへをもちゐるべきところもあり
ずしたがひもするまじきことをいやしくも

あく[illegible]ハ玉をこがねつくりて
とかすくまわづすてこがねんく。
あるうちに
いづまのみこ[illegible]ひこぢぬる人のまハ
たてこがねこそものをいひけれ
たてこがねとハ花ひなくたてあきらかなる
すりかなぐ[illegible]とりもちこがねよりあハあぢき
あきこまぎとてるを心ゆくぐんまごなどもを
[illegible]とこがねきまこそ。けあづまとうまよ
むかしこがねく東國をいてこのことをみいひうめ

まくるとこがねハ月報紀りしこうり。景行天皇
乃治とき[illegible]ことをなづまえびと乃。
こやこりたてこがねハ[illegible]のをこいこがねんとこ
おりくるまさがこと[illegible]とこがねのたてよ海あ
ヨとくるをこがこと[illegible]こをくハあるこがねて。毎年く
まこりのこるは時ハそくる風ときをくこと
乃ねおやうこるにをくちこがねびめと
[illegible]女こがこるたてこがねひこまこれりしがドすや。
今風あこをこをこくこがこのをたこがねん
とすこれこるずわこうこみくこみまこがこ

ねがひこがれ男をもちてこゝろをみいのち
りりりりとさうしんとひをなんどやりく波
をまけくうしに出ちづく仕りくば恵風ちまち
に立りうきくゝ舟ハ幸ふてむひ乃岩りい
りつき浦ゞくゝやまとけ乃こゝとゞえびと
をこゝとくゝくゝまつてゞ者てゝりまうんとす。時
うまひ乃坂をこゝふゝくゝみをとちづるび
めをなりひ出まひくゝぜんゝくゝくゝわづさ
れくゝまやゝうゝひ乃こゝねよのゞりくゝひり
乃ゝくゝをゝりまひくゝゞゝび歎じく。吾嬬

者耶とのゝまひつゝこれより有ゝを吾嬬とい
ふまゝまわりゝのつまとゝいつゝる暑ち
ゝることゞゞゞ山をとゝちづるびめゝゝの命に
かりんとくゝうゝゝるゝゞゝ
あるゞゞくゝ乃ゝゝゝ者ゝ幸ゝ乃ゝゝ乃
ゝりゝにあゝゞゝゝゝとゝゝ
ぢきゝゝき雅りをゝゞんゝゝのゞくゝ女
を男をすゝゝなくゝりくゝとあゝゞき
わきゝゝゞ彼をゝとゝちづるびめハ建稚氏岳山乃
すねといひ一人乃むとゝよゝんゝりくる

百葉集十六りむり様ごといひくる女をなぐこ
ろりなもひくみくぺいのちをすてあくうひ歩
きてぞそんふみおりふやういみくよるひとりみ女
二門りゆくことをきくずなくこみこころをいとやを
らぎぐこれぞでらぐ勇をうふつるたく
事わじとおもひとりくはねる林乃中りう
りくぺぐくうせ侍ぺこれをくうこくみ
ゆくみなくこみよめる
くるぐれいかぐこせんと多なりひ
さくみをふいちアりくるくを

いをが名ゝ
はねゝや
山かゝ
ろけゝる
男をふぐり
かゝこけ
四の河
時のをん
りゝやゝ
んぐゝ

かゝる様ゝ
元ゝんいや
ゝとゝ
ひゝ女ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

いとゆうく伝ふるやうに。
まくきくるおやをとうをさつ
をのうをきつ。ふぐきをもおりひやりく。
ひさすうをしをちりひとりごひいとうる
をいふひあきるぎあくしぐみいみくの
をとうちづみびりみ。ふとうみいのちりうくんと
いひしうろざ。中ごろの　おき信おぐおやと
うとけく威ををちぐめおとうりうく
わづ多形しうりしおふみけちとふとくをちるく
すうをて為世りいるづうりいきのうんりい

ちるうよまきわうとゆすうを拾りぐうりいを
とめみるおとはいまはの宝りをとわばうとて
のうり伝り都さごぜんうちりふ為の乃こひつう
これうりといひつるふまうとみやるるん
又百紫集乃うりう

多しびめうみねをてうんまりうの海
いをがまりづき月ハへぬうと

とよめる。多しひめとは。仲哀天皇乃きさき。
神功皇后乃事をふり。遠神天皇をたうく
おりまりあづく。彩羅うくさいうらいをう

ちちぐ。おやみちとをさめとをうひのくる事。
六十九年乃あづまのりしぢぐ女ちちつて
ちぢ和とのぐぐりづ〳〵おりひくとぐ〳〵ど心をぶ
りうちひ作〳〵ハ。くぐ〳〵おとこりことちぐぎ。
ちち和ぐ乃尾ぐハ。ちりともみ中のぐ。小系乃
時政がむとめちりしよ。拵家。寳朝うせのひくのち。
ひさち〳〵。鎌倉をおさめのぐりぐこれを尾将軍とう
世の人中作とうん。牧ちちくが。末首乃ちちちりぐ
ちぐ〳〵ひつ。ちんぐ乃八郎やくぐうしむり
地ぐちりぢ〳〵作〳〵ずや。ちづりぢぢ。ぢが判

友ぐ。いざぶ。ぶ作坊が。茶ちちせ〳〵ぢみ
ちるまひちどがれ。ちぐ〳〵ひやし乃ちちを立
毎ぐるものちぐ〳〵ぢかいぐ〳〵ちぐいぐぎ
事ぐちる世ぐりたつぐられ作ぐう。ちりき世
乃瓜生乃判友ぐ。ぢぐ。ぢ母乃ぢみぐうち
死をぶぐ〳〵ぢ。ぢを忠ぐることぐをのぐ。
のちみちぐ乃人ぐちぐぎちう乃やけ心
をぐぐ世作ぐぐちぐ〳〵ひぐど。武ぢ。ちりはぢちり。
母ちあ。ちんぐものぐ心をぐめぐちひは。
こひねぐ。ぐぎりぐこりぐれ

いせ乃清・宇多乃うらどうりゆはひきひゝきき
うらどやうく清ムくるをかりぬさせめもんとす
ゆうりごゝきでん乃うぐりかきはくまん
わるれどあひをかまぬをゝきを
えばんことのあのかうき　伊勢
うらど清らんぞくゝゝくゝゝくゝゝさせのよ
ゆひとりよ清ぬばうをゝをうぐく
ゆきめぐりくゝをまのうぐん
いせゝゝゝきをうぐんゝ乃とよゝゝ清ぬ。
うらどかりぬくゝぶいせをゝもよ内裏をまうぐ伯

ゆふべはいとをかしきをなどいとはしりなど
ものをかしくよめるなどはいとせをも
ぐさめまほしくのどかにうちながめ
をりぐりのあはれなどいとかぎりなきの
清の心に二君にはべりとなりてはべるこころ
ばへやさきこそはあるべけれ
世に名あるひとのもとにまゐる女ぞうの
こころぎはあるべけれ心
うるはしくよみ侍りけるを拾遺集
に撰集せられにけり

建礼門院右京大夫集

乃むことのかぎりなく平家おちうせぬ
乃うらやはしらぬ世ごとにひきこもりぬ侍りよさる
べきくにけりくいひひそかに事わりくぞ
とくのちなりひ乃わるるうやばくさく侍
右京院乃うたゞ侍りしかば蔭はぎれうあどを
うくぬしれ事のうかおもひもきつるうきに
月のくまもあきをなげくよりめる
いまはいくたのくわたくしいみくを
なりひ出ふとすめる月乃郎

あいれいのさうしのちぼりうえ
乃めん乃勅をうけうりくゞ宮家で新勅撰集をい
えうれうときぞたう事れたる更乃うをいれられん
とすうる院右京院乃うきやーのざいぞもうくべき
にうがうもうれこうろぎーうぞうもんれい
うんめん乃うきやうう乃たる更と俊うりうせ侍
やうくやごとあきぞせうりうんう
いづうく武ぎがうくれうは感まうるうき。貴
布禰うりまいりうくうのうぞをうて
地なんばさを乃うるをわが身より

女下十五

ちくげれそぐるまりとぞこる
とちがやをれば法やーろろちより西ひるこ
ちゆくきこしろう
おくやまりしぐりるくりるまるせん
しまちるぶうりるのるおもひう
み法利まりやぶとしつまくりゆと
ちん
いしせ乃中ぶりうれさうれるまぶまそきき
事とばいみまじき事じおるこりり
きこをときてあぐー心を記もこハ

すあ乃まりやまあこしちん
あるこうとハはるこるるぶーちろく
ようすこあるおとこかんるすあ乃まりやまをそ。
はれ山りは乃こはんときぐるるぶきとちき
をくるまぐ。れぐるくこれまるとちるへ乃ころれ
かるをぶまれまりの山のあこゆるといるりうれま
まるりあこれはのるずあるあ
うこれるるりうるこるるぶりきれこあ
まりやまのうへりこゆるやるはるをある
へくをるきまるれぶるの山をこはんときり

わをれんとハ
ちぎりし
うち

こゝ湖水をつひあつせるく孤嶼の中孤嶼とつひつ
まるこゝ和さきくべき孤とハいつひちぎ
きわぎ如くれよりこゝ無女乃くせくばをわくもぐき
男こくくれるわかうどくくるいやなぐ拙わく
わぎよいひちく儀をこゝ無こゝ金体なとハ
やきくみて侍ぢ　こゝをもむしくと義ちるこ
とハちひいれあるやくるれいえせうこゝよこゝうと
ばくるうまくをるきわみも述怪ぢちくそ
まくくしこゝ無うをのくよもしり完全乃
いまちをれ侍りみ面中吟とくくこゝ

ぬうこうの宮の御ぞうもあらもて
かいつまをそうまいりきすぎてと也中殿の文
家をとゝ侍いぶ浦風のみんれこゝろまく
こうの將軍みちくおりくに佐うの為
しきゝく清れう爲家でいくあゝされう
くゝゝたくゝ佐男れうくゝりさるゝ世
のうまへ出まくぞちゆきをうしはすあぐ
きくゝゝるつゝゝ むねゝみ親むゝ
ゝゝせのゝゝちひゝまゝいむゝあゝく
いまハねずみあるう世れ中

これゝ東方朔ぐこゝとだゝ聞之則爲鹿不聞則爲
鼠といふのこゝろあるべしきゝゝうへいこゝとど
のすゝをゝゝくゝゝるむぎゝりこゝゝ女ハ
こゝゝろすぎこゝゝりこゝ
女の浮世をねがうんりゝとぐめちゝくちゝひゝう
てゝゝ中將姫の二上山りゝちぐこゝりつゝちま
ちゝりのゝこゝりゝちひゝまゝこゝつゝ
れ中ゝゝを今出川院の近衛殿
ものゝ言ゝはきゝれのゝりゝふま
ゝひゝゝゝぎゝりゝゝらん

うどいふる名所をたづねて續古今集よりこれ
五代の勅撰にあひてうたのすがたこそ
ふる人の一生ふねの道にたとへ侍る歌
万部よりもとりいとわりがきわきまえ
かやうにこそいはまほしけれ。おのやうに
四をはくくことをつゝまじくのそれをとこのひ
がくくしいたづきえんにはたらきまつる女をある
とをめりうえんじにかとくうくう
あり心をうるはずのあるあさのあるの心をりもせ
くかくをうつ方をくるなどたてんこゝろをあさ

きくいうぢきみのれいたくがごとくなのひられ
る四をねをあるまじれいまじわがりふ世をきき
四をそをけをくきりどうくれどをや
にうくくきき人の四をそをみをせ山里のすまのあ
れば柏さびくいかがいてのいとうのひの
うのこゝろくにちどいふこゝをなひとうれ世おなこ
の事をなひ出をうきをるさをおや
をくくくれるまを道ふるをゆり海
りすをどくくをりをあがにくくうき世
にをうをのどせんを世ゝをけのはをつ

うくこん世みつくるもとぎわざうらを
ひらくびわやまりくいふくやくとくぬこ
とうれそうひくくうくおりひもづきくち
うくを知
これを与る事うれどうみ平相國りうくを
紙をいくをいそでうんとすうくき
くくいそづるくくをなうづのぐみ事
いそれう秋うくわうぐきくりづき
くくくくくくくくる障るうかきつみつまる
うり湯漁のくわくにくちづこうり作を佛ちぢ

これをくくくやづくいくくを玉ひじりづくうり
りくくをうりこづくく紙まづくくとに生くひいき
くもうり彩ひ作くこくやさくいうづきゆぞふ
くを作れ今の世りう女るくばくくひのちうくハ秋うり
うひ作るまくくどさばうみ寒やくをゆくいくで
うかくくりくくくいうをなりひくうり作るんうをす
くり紙まづくちくんゆをもくうくずうくうろひやと
き相國りよくうくハうれうんゆくすうをもなりひくう
で作りあくるくづくうるひをいりとあうす
心のくくいうくうりうくくくりうづくくくくやと

[illegible]

[illegible]

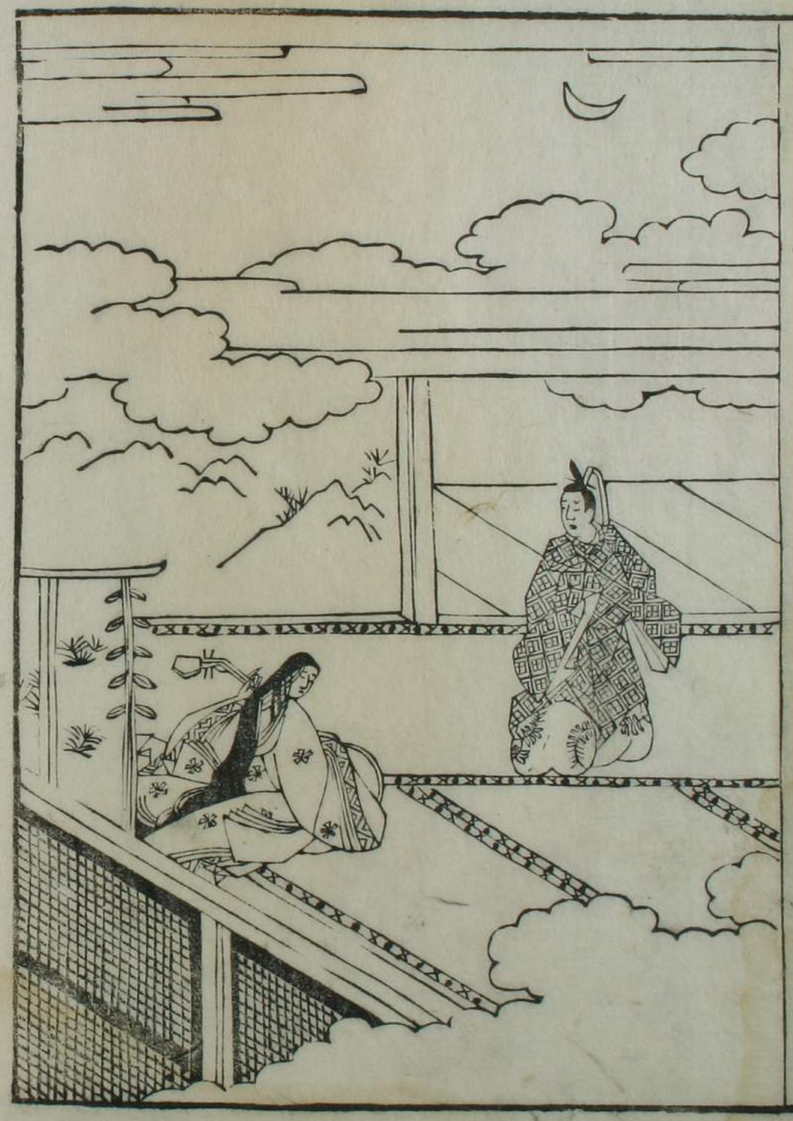
玄字乃ひゞを結孫經佐書で作らるる時人こゝあり
布施をうりくるよ極女家本とゝふ[illegible]

をおりふしこころやわらんあげしとぞうしば
はのくるみあまをのこころのうちあるを
あうひさうつれまつとこうきけ　狂女哀末
とうとう待つ之西行法師てうまつ待くるう。
みそうう西ゆうくれハ沼口うりやどをうりくるハ
つ待きうくれハよろこび待くる
世乃中をいとふまてこうくるうあ
かるみやどりをかりむきく邪
れつ　妙といひくる狂女
世をいとふひとしきけハうりみ者よ
こうろとむとおりふだうり狂

女下七二

むかしハかく程女白拍子と心ある哥よみくゝ上臈
なれ
なれ
なれ

てんまやくろうどの
さよふけくいまそねもてあはれ
やもりのせくまたれぶらまくまもひくき
ものくるい
夢ぐりあふぎくやまうん
とつけ作りぞこ一条れぬ乃法ときき二月のつ
ごもり風ふき雪とうくるまま寧わ中悔
すくるなるこちこうすれ
とつるをとのうぼきくひをを世
ぜいくとくやもわしに。清水納云



そうさむこうぞくはよまうくへくちる雪よ
とつひやまくれぬぬとつうぐめでとてこれ
中将などうへよりあげく掌侍りなどうへ
あひまひしとやく女を連哥などこゆうんあ
るまりき事ゆやあんぬぐぐいて
いうんこうぬぬにたぐひく興
をくよのわとくぐきしぐくゆうぐ
よくくるとるうばこうゆるくけきるる
ぬしぬ法が納言一条院乃法ようけひ
くくるよ。宮乃わしうくりるを法らんぐく

書畑巻をいうぐけうんなどこうぐよのくせ
くれば法が納言やぐくはまくのこすをきあ
ぐ始くくよいうぐ感ぜくせのひしとやれ
き白ふくう乃詩り遺ぐちる乃鏡ハ北をう
ぐくくゆくう乃雪ハすぐれをうぐて
うくとなるゆふくぐうをまきあげ始くあ
が納言乃北双紙とて鬼うくるこうゆがてうれ
おくこくまけるくなれどおさくきくる鬼す
ふくうぐきこうのくちあれ。第弐乃源氏物ぐう
くぐれふれ玉寝とくぐゆくれど北双紙

いとをしむべき事なり。人のこころづかひ
をするべき事なり。信はいとをしきなり。
あるべしおろかなるなりとて、おろかなる孝あ
る人のこころをとりて出すべし。人のこころにあるべき
中なり。親なり。孝あるこころ第一のものといへり。
信はまことなり。忠あるものは交をする信あるべきなり。
をしへるまづ孝をしへをしへ。こころをもちをよ
がるべきものなり。君をはじめ。君をはじむ。君
立べく。君なる。孝悌は仁をなすもとなり。やし
諫めをなすべし。人をしへ親を孝あるべ
ん

とをおしひ作べ。ふまべきあるべきものなり。
人のいきをうけ。身のおのおのをもちひて
おこなつておやうき事すべきなり。身髮膚は
これを父母より受べきものなり。
を孝のもとなり。身をもちひ名を揚
世にあらはすべし。父母をあらはす。孝のもとなり
なり。是孝はおやにしたがはんはじめなり。是孝は
ふまべき中ごろ。身をもつて
と孝経にはべり。人のなやみをはし
くさはいきはべれどもおやのこころをやを

りうたちんとなりふうきのそ男ハうをけうちう女
ちく女乃ろをそ〜ぷなこるうちうきこ心を
はのろず。たうと たうとちうようはく男ハ書物
をうく たうく たびのをぐまきうちてぐま
をゆうるうこをりつぷちぬふるぐををうを
ろをやーもひをーへうぐうぐ先祖乃ろをは
ぐめ。ろを世りうきうきしもる心づひを
たけうもぷるうどもにをろうふうおうこに
ううれ。たうとめうまれるばいうれぐうるや
乃こうろはぐうにそけうんるやうりうやうまぬを

なもいせけうんハふ蓑ハいうりうけうるうぬ蓑
経乃文乃こうろをうく心ゆるく女ハ新よはうふる
うめ。なこうりはうる中ぐろふうをうを
うぐうるをりうるうぐぷなるひうりけうきむう
し中納言兼輔つ乃むとうを西義ハうぐうり
うそまうりるひーこうろうふうるうる
人乃なやーの やハやうるけうるぐも
ろをなるふうるうちうまぐひわふ 兼輔つ
いとうれるうるりうれつぐうれるうるきか
ぐにうるくろうろをはうるうぷやうくひうく

うりくずでまえんはけはうはくせくの
まぐもまうふいおやのうひうれぞ。女と一ひ
ふつぎくふくうあくけなくこうとまけ
ぢやみを物をおもせでせいのひとぐくぐよ
ろげのうまようくくあびををさめやこうひ
をはとあけうぐきぐやうみうくようかとこに
くくくれ。あひきの中まのこうをきこれえん。
けつゆく春ゆうぐりうをうぐそうとうとう
ちくうをもようくはくうやまひつあうんふまこ
とにおりれちる考のうぐぐあるふつけど

みか紙えの筆ゆあやさくたくろくける
ふやつくをげもきゆなくみくろのうちもひ
ゆおくくををぐるあくぶ身のをこるひをも
ちくはとあ蔵きゆわくをとせどよろひ
りふまるるうるまひあるまぐきくぬ乃あきうの
ちる物みくもくくあひうちるくるぐあみ狂
をぐぐふ心も作れどのちくうちひくる
はうくきけうあをもくくつおれくとま
あくまぐををうくの作るのれぐのをぐき
物くうつるをくくくわくるまきや

まことになさこみこころのうちぞきづつきぬしなら
ずば。彼方のひとの名乃ゆくへもれをんなをうと
しとおもひをそしめ乃ふまぐ半せ一人をあすハれ
の野乃あとをとゝをうゆくまうゆふはなくをあるま
ぼろまきいかなこみこころのうちもわびてつゆ
乃世をまわるとくせ販乃ゆくへもをいくたて
かなこうしうとれたりさめをもあり〳〵ゆくゆくすふ
ま牧つしうくちわれうをれもあでいとあり。よれつゆ
彼驪姫乃ゆくへ乃ゆくさゆきまきすまきの
名をとゝめやしにうあしゆくゆくまこそ

ゐる女いとあまたきこえうちくしけるをのこ
いとおもしろくあそびつかまつるこぼしを
とめまゐらせわがるしとしてせうとしてせざ
りしかいかゞ思ひあまりてさいかちやうちやうき
うぐひすよりもまさりてこゑぐやうきゝ母やこひしき
とよろこばせ給ひ清輔(きよすけ)の朝臣(あそん)

かくいくさきさめもはやそろそろ乃せい
の宣旨といふまろ乃ふくひとり乃病をわひて死
ぬるものありこれこそものをもてきんて
そこ乃死をまねいきくこころまを見ずしてこと
ちらまありてくおるふまれこれをこそ作りと
いふやとくいふるやあいこころまずまれこそいこころ
し作りれとぞひよりのうひれぶろうまとぶ
ををふせんやうくひとり死るものゆへに二
人をころさんやうとおもひてぞひてぞ
彩こまりこちらをつくりあげれぶまこち

のものく女こそいはごろこそものぶものよう
あをよく生るべくれぶ母をめくくとのふ
ちちくをくをしびくあんぢぶぶも人を
ころせりしまおふをくこびよ死ちうとん
おるひあうひつぶめるぶひぬぶんぢろ
まれるをいうびれめるをころうんとおふと
ひれい母をくおのおさあきをとくを
こうく作んとこうくるをのくちやをて
これおさあきぶいい人乃ぶすぎよれて
あるぶこれをころうんとおるこうをいる

うやとひれいぬまこそくいやうあのかさ
ちきいはうめるるくぶとうきいはえ腹乃るく。
ろくが文ぶひくどこいはとちぶろまーをごみ
まるをはるあづろくぶやーえとや
をきうれぶはれうあひきけりきぶ人乃ゆいごんを
うみくぶそうこさくをとろうよけるく。
きうくあをころーぶとくをいっさぶこれろ
くろををくおろやひれ義をすろ
ろりゆいごんようもきけるぶーるを人をあぎ
むくろうれ人乃やくうをくぶけりそこ

いうぐうぶ世はくろうけるんぶろぶうめるるはいるほ
ろれどもぶ、をこるひをなりひけるじやはとひあ
まぶるる人をぶるきつぶせんろまこうーと
あぐまぶまぶこと義を感じのひてぶ年の始
をもろすみるひうみくを義母と名づけ
まうとうや
まるまくよめたくとめとうぐくきはみ
くとくごとるむーーけるにくこれ女乃
みれうくをくごを幸性ひぐくをろりるるものる
ゆくうぶぐひくをくろうるくゆと

こゝ侍りむかしちゝあるをんなゝりける
ゑぐ〳〵うしきぐあるゝはれるを音
久云乃むとめ趙姫とゝせゝ趙裏といふもの
はまゝゝりゝ〳〵ゝゝゝみるをうゝ侍ゝど趙裏
がゝゝのはまのゝりゝ有といふゝのありゝゝるを
趙姫ゝりゝてあぐめてわゝらゝみるぐもをを
とゝゝゝゝくひきゝくぐゝせゝりゝれぐまゝゝ乃
有ゝゝめぐゝゝを三れぐゝゝゝゝひゝく趙姫の脇
の中まゝゝれるゝ扉指といふゝのをすめて
音乃成云ゝゝあぐゝゝ公族太史とゝゝゝんゝを

こゝひのぐゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぎつるよりぐうぐうとふる雨をみてめしこめこう
あらくさきさきひけうハ行ぐめよりれうく去ると
めをうやまひやしるひをうりくのちハ行ぐ
わゞ身きくとあるうり行ずや。世の中もむく
ひをおりつつりつけくをよく去ることある孝行
すぐきわさがくり。去ることとうり行ぐぶうぐよめ
うしれるのるぐ。ようきうつけおきうつけ
く身をはきくくよろぐよなくうり行ぐぐいめ
拒めかくこれかやうれぐくくみげるるみるま
ひわくぐくずうろうめるむひとおうくぐみく

ぐつる心ハあくんむう　衛乃定公乃吏人宣義と
いひし人ハわゞみ公ふるれくさりよめむくしま
こそ公ふれぐるくくうせよりうこそよめよりうこ
のみぐよまうそれぐくせれ喪をうりく拒
よめをるけくくとくく。定義こぐ星
そそれるるあまぐとうゆきうぐけとぐるこ
まれうるれくぬるくひきくくめるくと
みよめのおりるんこうみうのううきを
なるひぐくくりぐくくくうくてよ
めれくげくまくよくぐよそくるこをうり行

狂言のごとく也なりひをのべく詩をはく
まくいとく
燕こ千飛　差池其羽　之子于歸　遠送于野
瞻望弗及　泣涕如雨
あどいひくあくあがめゆるうりぶはをめこに
とひくこきねをあてめまとつやくい奥れ詩
とつひてうまくこのるハ序寄すどいふ
やみ心ゆくきれの事をいうりこみまて
まくれりといふより心よりみくるをもてひきて
ふがめやれども彩をいくるすり

さうとめしてこころうつくしくよめをいとをしみる
事を感じて時乃君をこれていくさを八嶋姫と
あげてくおめあつりくるもの。さてとりとり
ばうくやさしくもつくしかりこと
小野乃天神乃法名を菱屋乃長兵とゝ名ぱら
くおつりくるくるき学問乃法名をくおつりす
る門裏ふくく及身とくこち智恵乃いろいる
ら物をとめす事なるふちざねを及身さふ
ときき法母きこれよりこるる
ひさうこの月のこゝをるばら

いくのくぜをもつてせてこゝる
月のこゝをおこと及身をさすまこゝる人ばこ
られこゝをさまるゆくこゝ乃くぜとゝ代こゝ家こ
はくくこゝる乃をつさこゝちざねこのちくきこを
是善といひこゝるこゝ祖より学問乃家こゝ
ばこれいまゝこゝちざねこゝを久ふ宗宮れ法ま乃
及身をさこゝこゝふちのこゝちくこゝ
せこゝこのこゝれこゝ人の母こゝいとゝ
こゝもとばこゝりおこゝひこゝくこゝもんをもこゝてこゝ
らこゝるこゝうびこゝぎ汁をせこゝくこゝこゝ

めうしの乃うへにのるをゐいわづらひてやうやくにして
ちからをつくしわざをうつ。やがてうちに家に
ぐくちんをなりわたりの人ありとおもへれ。母の心ばせ
わるくやむごとなきまでたくみなるをとくとくに
てあり。作る事。父乃わざをうつる事をなづく。父こそ母
乃心ばせをうつる事おのづからなづ。孟子といひ
ける大賢乃母ぎこそ家をうつりかへられ
ぬ。孟子いとけなかりしかどのうれはつにたちも
乃いとなみをうつしてつくをうづくまるを
をしたりしかば母これをこそわづらはしき

ところなりとて家をうつしてまたうつる。市乃うち
もまたうれば孟子いはく乃ちまねをしてい
はれり。三ゝ乃母又ふたゝび子をこんにちまでといひ
て学宮乃わたりに家をうつしてすまゝれば
孟子又ゝ学ちの日ごとをえもしらぬひ
とりあれども礼をもて俎豆とをくれりゝちゆる
なるをこゝろをこゝろとくちゞにたるひとり母これをこゝに
こゝろハまことにわづらはしわるべきなりとて家居
をさだめひとれば孟子成人たるふまに婦り
大儒乃名をとげたひ身をやとり母乃心ゝちひ

[illegible]
人の母となるべきことを
わきまへて周の文王と
とりあつる王者とす人の書とあらくゝ
まをたゝくゝのひくゝすでにまもるより
ゝ周のあきらをゝずゝにこりれゝる
ゝをきさずゝ口ゝをこれることをいそぎそみ
月ごろみてしゝをとゝゝあつて終り
文王をうゝまれひゝ作る聖人の
山ぐちをゝおりゝゝ治母太任ゝゝ

[illegible]
げよみのちまぐゝ國を治め天下をゝゝゝる
ゝのごゝとあるゝ彼ゝゝゝゝあひ
ゝゝかとあゝくゝゝゝゝ世ゝゝゝふ
きゝのゝあゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝ世のまゝゝ
みをゝゝがゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人
乃ゝみちゝゝ藝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ中
にゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ母ゝゝゝ
ゝよくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人の
ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちかづくやうやうひさしくなりぬれば彼松
の浮尼の家明寺殿をとりて時宗をもづく
はくろひさく猶ハやがれて恋ゆ俤をくさ
まるまでとわるさ人まとちくハさんとのまひ事を
きくにしたがつてくく作りずづく世を
さくく名ある人ハ物ゆくハさまをくるよ
をびゆゆく作れどわが身をよくつくしさめて
ちくるをとき名をつくりて是乃名をもわけ
ずるを孫まくくとき家に風吹つくく世く整昌の
ゆとゆ作るべきまとろ

世仁天皇に治とき熱田太神をはむとめに倭姫命
よりとしめるとうくるを倭姫命ハせに玉ゆおり
れば天神をくてのまつく山神風乃ゆせに玉ぶと
に波乃ちきまるみよする玉くるみうゆ玉
ゆ乃ゆとなりと神託せるとうくれハ乃
うこを京ばくうちたるこれ内宮にまゆくかくて
倭姫命清心神明りうるひまうくれハ七百餘家の
霊をしまちまうしぶくこを心を續後撰集
神くぜやいまとぐ乃川のいるのゆやとる
乃波に玉をまぐのぐくまとよめわるる

置かうり暗あるかあるをゆどをのあうつきを
とあるるいぶをのちわやちきるのよあんすとし
そうすすくく世のあるちにこのいひさいまぐ新
きぶくきさのくるいひをきつるこめをそづし
くれどぶちをづりおなひあづくれも指深う
ちふくくちちをてぬぎさまぶふをなじう
いうを兵あきさまぐごとりのわどうくちねの
おやのいさめうくくひいるあうびのてうどふ
をづくうる汚しをのくうてあうひちひさき
くうるわるやどみうちうくくこれをまぶちり

かうみ幸ふうアうくいまあづあるみよくぐう
ちふさぶるちわやきくいうるあきせ
のこをわぶみひまづくるも人の世よあいにどぐ
うくくをやうみるこをづろくちどるいさ
く心をゆうずあるいふあゆく月うむひて
をゆうひをうぶはうてをかきうくよく
こうろもるちうこうをあるうをひを作ねるいさろ
ある人のうをちかアを出うあるをるしと
ふ紙を源氏さづろをちどやうに名うき
ねといきうねどうるき女のうるる汚ちあうね

ことの葉をもかきはらねてひとくさ(ひとくさ)ぐさ
のめもとつうつまをうれきこうはる
いつれの時ときふかゝる人のつちきるとうこと
もたり侍るねどこゝろのあるれは
めづらにおもしろ(れ)かれ(れ)侍りうつゝめんや
志侍るうつゝ事(こと)あ申(を)ちきはもたるかきうう
れいぶでうちどりのあるこゝろ演(を)
のまきごよくたるべくとなるぬ不ぶぐ(ぶ)ぐ(ぶ)
く侍るうつゝ事(こと)をもとめうふよく
うぐへるくめてをいつまをうをえうをえうび

をを所ちうちくハえうまうれぶう
もくくをなれ(れ)ぱさし乃おもきよ多に
うぐうずハさばうわ乃ちぐちぐきるもあうじと
そうあきさ乃ひとくごろうういおもひちて
かのうあはめをきはる物乃中ちぱめと
どむべうくるうをと秋野乃むとえう
ひとうてぱあうれおちぐうきまぐ侍ぱを
ろうれ列(れれ)女侍るとぱのちれひとうきうう何ぱ糸
乃ひををめぐうりを侍勢の時(ぜ)れ年(そ)くへ侍る
をうぐひをあもるを侍るうぱ。くうこぐく

久きくまへる中乃ひとこと申くを忘れん人
の間とまる事なれはさしはくるまひし
ゝと何人乃かいうふくを為やうを給りぬ。
かく拙ひさぐあきうみるつまうろ
ゝ給ふんとよ

文ぶきしるるだぐろこころぐちれそうりまぐ〳〵
てすぐろうしぬきちしり　敬原氏女

萬治四年辛丑初春吉日
中野小右衛門板行